＜論説＞

ソ連における人口移動
—1960年代—

保　坂　哲　郎

はじめに

別稿で詳しくのべる予定であるが，私はマルクス主義古典における「都市と農村」の問題が次のような内容をもっていると考える。(1) 都市と農村との分離と対立は，基本的には社会的分業の私的所有の枠内における発展，農業から工・商業の分離が実現されていく場として発展してくる。その過程が最も明瞭にしかも急激に表われてくるのは「本源的蓄積」の過程においてである。さらに，両者の対立の発展や格差の増大は，都市（工業）と農村（農業）のそれぞれにおける企業の作業場内分業の発展のあり方，それに規定される所有諸形態を反映したものとなっている。(2) 他方，都市と農村は，精神的労働と肉体的労働との分離，対立の最も明瞭な場面でもある。都市それ自身においても，経済的基礎過程たる作業場内分業における精神労働と肉体労働の分裂，対立は発展し，機械制大工業において完了し，精神労働は労働に対する資本の権力に転化するが，より包括的な精神的労働と肉体的労働との対立は都市と農村という対立の場に最も明瞭な形であらわれるのである。(3) 都市と農村の分離，対立の問題が根本的に解決されるのは，生産手段の私的所有という狭い枠がとりはらわれ，生産手段の社会的所有のもとで分業から労働転換への移行がなしとげられた高次の共産主義段階においてである。広義共産主義の低次段階としての社会主義段階における都市と農村の問題は，機械制大工業の確立・発展を基底とする分業から労働転換への移行過程という段階に基本的に規定された，漸次的な融合過程であるといえよう。以上のように，都市と農村との諸問題は，たんに経済的な問題では決っしてなく，共産主義社会建設のもっとも中核的な問

題を反映した意義をもつものといえよう。

社会主義社会は，「いまようやく資本主義社会から生まれたばかりの共産主義社会」であり，「あらゆる点で，経済的にも道徳的にも精神的にも，その共産主義社会が生まれでてきた母胎たる旧社会の母班をまだおびている」わけであるが，この母班の基底的内容をなすものが「個人が分業に奴隷的に従属すること」であるといえよう。しかも，その最大のものが精神的労働と肉体的労働とのあいだの分業，対立である。たとえば，小野一郎氏は社会主義的民主々義における体制上の民主主義という視角からこの点の内容を検討して，経済と社会の共同管理主体は第1に，大衆的・自主的管理と職能的・専門的管理という二重性，第2に，自治的・自主的管理と階級的・国家的管理という二重性の2つの次元における二重性をもつとのべる（①—82～3）。また，田中雄三氏は，社会主義の「同質性」と「一体制」がともに高度化するなかで達成されてくる「統一意志」の形成過程（具体的には国民経済計画の作成）への参加のあり方として「企業ルート」と「市民ルート」とをあげ，社会生活全般との関連の中で統一意志形成に参加できていく「市民ルート」の意義を強調されている（②—75）が，都市と農村の分離・対立の克服の問題は，以上のさまざまな分業を克服していく具体的な，しかし基本的な問題領域として重要な位置をしめる。農業部門と工業部門を中核とする国民経済諸部門間の発展の問題，全体的な文化・教育水準の格差をなくし，これらの水準を向上させ，共同管理主体としての能力を向上させていく前提条件創出問題，「管理中枢機能」の集中・独占を打破し，全国民による管理の為の諸条件を発展させていく問題，総合的な地域発展や生活発展との関連の中で自覚的に共同管理主体として「市民ルート」や「企業ルート」に参加していく問題等にそれは現わされている。

本稿でとりあげる「ソ連における人口移動」の問題は，以上の問題，とくに都市と農村における精神的労働と肉体的労働との関係が最近のソ連においてどのような変動をとげてきているのかを検討するための基礎的考察である。この変動の研究には，さらに，工業，農業を中心とする諸部門の労働力編成，その質的構成の変動の検討が必要となってくるだろう。

人口移動研究のより具体的な意義について，ソ連における農村社会学の中心的な研究者の一人である T.И. ザスラフスカヤは農村における人口移動を念頭において次のように位置づけている。

「流動性（мобильность）の概念は，個人やグループの位置を空間的ならびに社会的構造的に変える，とくに，その社会的状態や社会的分業における状態を変える過程を特徴づける。

社会的状態（сочиальное положение）と社会的分業における状態（位置）（положение《место》в общественном разделении труда）の概念は共通した諸要因をもっているが，しかし，一致はしない。個人やグループの社会的状態を決める最も重要な標識は，階級的所属（生産手段の所有に対する関係），遂行する労働の性格と内容，社会や生産に対する管理参加の程度，教育水準，物質的状態，生活スタイル，自由時間の利用の利用方法である。……

個人やグループの社会的状態の変化は社会的流動性を意味する。社会的状態は社会的分業部面における労働者の状態に依拠しているが，しかし，それによって完全に決定されるわけではない；後者は，その他に，社会的状態概念に包含されない一連の補充的標識によって特徴づけられるのである。

社会的分業の主要な標識は仕事，職業，資格水準，職務，そして，労働者の具体的位置（地区，住民地点，企業，部門）である。

分業部面における流動性は，労働者の移動，従業部面における労働資源の変動（社会的生産における労働から，生産から分離した教育，あるいは，家政，あるいは個人副業経営への参加への移行，あるいは，その逆），職業的流動性，労働者の資格の向上や，職務昇進，その他の形態であらわれる。流動性のこれらの諸形態の研究の必要性は，まず，経済の必要による。しかし，分業の部面における流動性は労働者の労働の内容，教育水準，物質的状態の変化と関連しており，社会的流動性の過程ときわめて密接に関連している。

人口移動は社会主義社会成員の流動性を構成する一形態である。それは，社会的流動性や，社会的分業の部面における流動性と密接に関連している。実際，居住地の変更は，多くの場合，労働場所の変更，極端には住民拠点や企業

の変更をともなっている。長距離の移動は地区間の労働力再配置をもたらす。都市と農村との間の人口の交換は，ふつう，労働者の社会的生産の一部門から他部門への移行，きわめてしばしば仕事の変更をともなっている」(③—140～141）と。

社会的分業と人口移動との関連や，それらの研究の意義について，基本的に正しいと思われる。

I　1926年センサスにおける人口移動[1]

1926年センサスは人口移動に関して時間的に詳細な区分をした統計表を有し

表1．ソ連邦における人口移動（1926年，⑦—Том 51，стр 128）

性，年令		総人口（A）	2年以内の恒常的居住者（B）	B/A（%）
0－9才	計	37591841	1250327	3.3
	男	18887379	629102	3.3
	女	18704462	621265	3.3
10－19才	計	34067261	1591851	4.7
	男	16776047	685228	4.1
	女	17291214	887516	5.1
20－29才	計	25850995	2300068	8.9
	男	12202615	951835	7.8
	女	13648380	1356331	9.9
30－39才	計	17517664	1101287	6.3
	男	8291436	574906	6.9
	女	9226228	496372	5.4
40－49才	計	12862357	541815	4.2
	男	6285807	316726	5.0
	女	6576550	225089	3.4
50－59才	計	9246139	275807	3.0
	男	4230128	132504	3.1
	女	5016011	136303	2.7
60才以上	計	9892966	243604	2.5
	男	4319523	90073	2.1
	女	5483443	153439	2.8
総計		147027915	7259347	4.9
	男	71043357	3390263	4.8
	女	75981558	3899087	5.1

ているのだが，1970年センサスの区分様式と共通させる意味で，移動後2年以内の移動者のみを対象とすることにした。一連の統計表をみていこう。

第1表は性別，年令別に見たソ連邦全体の人口移動数（率）である。(1)これらの人口移動数（率）は1970年センサスで表示される当該数と基本的な意味—経済的発展や変動を基底とした国民の移動—を共通にすると同時に，革命後の政治・行政的，軍事的変革過程を反映した移動の面があるであろうことは多分に予想されるところであり，これらの要因のために，70年センサスとの単純な比較は無理であろう。(2)年令別にみると，20—29才層と30—39才層の率が相対的に高い。(3)性別には，これらの年代層に限らず，格差はない。

第2表は性，年令別にみたソ連邦全体の都市人口の移動数（率）である。(1)

表2．ソ連邦における都市人口移動（1926年，⑦－Том 51，стр 130）

性，年令		総人口（A）	2年以内の恒常的居住者（B）	B/A (%)
0－9才	計	5209360	530379	10.2
	男	2629528	221951	8.4
	女	2579832	308428	12.0
10－19才	計	5553962	750153	13.5
	男	2591902	345725	13.3
	女	2852379	404428	14.2
20－29才	計	5987414	1135536	19.0
	男	3018627	563975	18.7
	女	2968787	571561	19.3
30－39才	計	3829394	600044	15.7
	男	1915585	329585	17.2
	女	1913809	270459	14.1
40－49才	計	2617239	262036	10.0
	男	1354599	163745	12.1
	女	1262640	98291	7.8
50－59才	計	1673663	117905	7.0
	男	775445	60541	7.8
	女	898218	57364	6.4
60才以上	計	1420879	100058	7.0
	男	507724	30833	6.1
	女	913155	69225	7.6
総計		26311370	3445734	13.1
	男	12917693	1832205	14.2
	女	13306677	1703929	12.8

統計表（フィルム）に数字の判読困難な部分があり，整合しない部分もあるが，第1表と比較すると都市人口移動率は全体の移動率よりかなり高いことがうかがえる。(2)年令別にみると20—29才層の19.0%を頂点として10—39才層の人口の流動性が高い。

第3表はロシア共和国における人口移動（率）である。(1)総人口の内訳は女性が多く，革命，内戦の影響がみえる。(2)第1表と比較してより高い移動率を示しているのは20—29才層のそれであって，ソ連邦全体における移動率との大きな差はない。(3)年令別には20—29才層が若干高い。(4)性別には，20—29才層の女性の移動率が高い点が注目されるが，あまり格差はない。

第4表はロシア共和国における移動者のうちの自活者（самодеятелые）の職

表3．ロシア共和国における人口移動（1926年，⑦－Том 43, стр 128）

性，年令		総人口（A）	2年以内の恒常的居住者（B）	B/A（%）
0－9才	計	25717634	926541	3.6
	男	12872695	461481	3.6
	女	12844939	465060	3.6
10－19才	計	23662771	1462072	6.2
	男	11568606	797754	6.9
	女	12094165	664318	5.5
20－29才	計	17466328	1662911	9.5
	男	8126606	671949	8.3
	女	9339722	990962	10.6
30－39才	計	11730462	719345	6.1
	男	5449132	417480	7.7
	女	6281330	301865	4.8
40－49才	計	8897208	410114	4.6
	男	4266013	238672	5.6
	女	4631195	171442	3.7
50－59才	計	6510648	211954	3.3
	男	2922558	107505	3.7
	女	3588090	104449	2.9
60才以上	計	6857143	187420	2.7
	男	2932361	69173	2.4
	女	3924782	118247	3.0
総計		100891244	5349678	5.3
	男	48170638	2470694	5.1
	女	52720606	2878984	5.5

業分布である。(1)この時点では総人口においてⅢ．雇用者・自営業者（農業従事者も含めた）の比率が圧倒的である。しかし，そのうちで農業従事者は31.6％であり，それほど多くはない。(2)移動率をみると，Ⅱ．職員，Ⅰ．労働者の比率が相当に高く，Ⅲ．自営者層はきわめて低率である。(3)性別にみると，労働者グループでは男性の移動率が高く，職員グループでは女性のそれが若干高い。

表4．移動者における自活者の職業分布
（ロシア共和国，1926年，⑦－Том 43, стр 129－131）

職種		総人口(A)	比率(%)	2年以内の恒常的居住者 (B)	B/A (%)
Ⅰ 労働者		4001149	6.7	670479	16.8
	男	2859068		528149	18.5
	女	1142081		142330	12.5
Ⅱ 職員		2876975	4.8	664866	23.1
	男	1745760		389230	22.3
	女	1131215		275636	24.4
Ⅲ 雇用者，自営業者等		50509491	84.3	1512469	3.0
	男	25046258		638872	2.6
	女	25463233		873597	3.4
Ⅲ－1，農業従事者		18941788	31.6	1315687	6.9
自活者総計		59942793	100	3380777	5.6
	男	31213300		2138692	6.9
	女	28729493		1242085	4.3

第5表は4表でみた点を都市移動者についてみたものである。(1)全体的な移動率は表4におけるよりも高くなっているが，その主要な根拠はⅢ．自営業者等の移動数（率）における両者の差である。(2)労働者，職員における移動率はロシア共和国全体のそれより若干低くなっている。しかし，自営業者等に比較して労働者，職員の移動率が高いという関係は変化していない。

第6表は同じ問題を農村についてみた表である。(1)まず，総人口の圧倒的多数はⅢ．自営業者等であり，労働者，職員は，いまだ，きわめて小さい比率しかしめていない。(2)労働者の移動率は第4，5表と比較しても大差はない。(3)職員のそれは27.1％と高く，都市における職員移動率よりも高い比率を示している。(4)Ⅲ．自営業者等における移動率はきわめて低い。

表5．都市移動者における自活者の職業分布
（ロシア共和国，1926年，⑦－Том 43，стр 132－135）

職種		総人口(A)	比率(%)	2年以内の恒常的居住者 (B)	B/A (%)
I 労働者		2330950	28.4	383846	16.5
	男	1735619		314307	18.1
	女	595331		69539	11.7
II 職員		2168473	26.4	472744	21.8
	男	1326192		273406	20.6
	女	842281		199338	23.7
III 雇用者，自営業者等		1706232	20.8	124609	7.3
	男	1136644		119782	10.5
	女	569588		4827	0.8
III－1 農業従事者		872948	10.6	37533	4.3
自活者総計		8221888	100	1312006	16.0
	男	5443895		908290	16.7
	女	2777993		403716	14.5

表6．農村移動者における自活者の職業分布
（ロシア共和国，1926年，⑦－Том 43，стр. 136－139）

職種		総人口(A)	比率(%)	2年以内の恒常的居住者 (B)	B/A (%)
I 労働者		1670199	3.1	250341	15.0
	男	1123449		181858	16.2
	女	546750		68483	12.5
II 職業		708502	1.3	192122	27.1
	男	419568		115824	27.6
	女	288934		76298	26.4
III 雇用者，自営業者等		48803259	90.8	1357860	2.8
	男	23909614		519090	2.2
	女	24893645		838770	3.4
III－1 農業従事者		48068840	(89.5)	1278146	2.7
自活者総計		53720905	100	1871446	3.5
	男	25769405		862918	3.3
	女	27951500		1008528	3.6

第7表は同じ問題を地域別に見た表である。現在の地区区分とはちがっているのであるが，概略的にいって移動率の高い地方は，シベリア・極東地方，クリミア地方，ならびにレニングラード等の北西部といいうる。移動者の構成比をみると，これらの地域においては労働者の比率が他にくらべて若干高いとい

表7．地域別・職業別の人口移動（ロシア共和国，1926年，⑦—Том 43, стр. 141～158）

地区	総人口 (A)	2年以内の恒常的居住者 労働者 (C)	職員 (D)	自営業者等 (E)	うち農業従事者 (F)	計 (B)	B/A	C/B	D/B	E/B	F/E
I 北部	2368440	9536	17129	34519	33043	102217	4.3	9.3	16.8	33.8	95.7
II レニングラード・カレル	6639711	86339	81548	85521	63319	550697	8.3	15.7	14.8	15.5	74.0
III 西部	4299150	12381	19457	50311	46588	140829	3.3	8.8	13.8	35.7	92.6
IV 中央工業	19314024	190678	206602	195252	158358	1120489	5.8	17.0	18.4	17.4	81.1
V 中央黒土	16823830	13939	35928	125032	118960	298483	1.8	4.7	12.0	41.9	95.1
VI ビャック	5403197	10088	17098	74665	71793	150806	2.8	6.7	11.3	49.5	96.2
VII ウラル	6786339	49483	41500	122542	112223	373648	5.5	13.2	11.1	32.8	91.6
VIII バシキール	2665836	6965	7839	51658	48644	76291	2.9	9.1	10.3	67.7	94.2
IX ヴォルガ中流	10268168	25912	40532	128995	117947	393267	3.8	6.6	10.3	32.8	91.4
X ヴォルガ下流	5529516	27748	31174	66090	55289	264444	4.8	10.5	11.8	25.0	83.7
XI クリミア	713823	7922	9641	15453	12278	75223	10.5	10.5	12.8	20.5	79.5
XII 北カフカース	8363491	64237	54140	167164	163498	564369	6.7	11.4	9.6	29.6	97.8
XIII ダゲスタン	788098	5397	3413	8233	6767	33804	4.3	16.0	10.1	24.4	82.2
XIV カザク	6503006	18667	16767	87534	80537	246261	3.8	7.6	6.8	35.5	92.0
XV キルギス	993004	3217	3855	12998	11074	42333	4.3	7.6	9.1	30.7	85.2
XVI シベリア	8687939	69341	53861	235650	209095	691725	8.0	10.0	7.8	34.1	88.7
XVII ブリャータ・モンゴール	491230	1460	2251	8837	8096	22728	4.6	6.4	9.9	38.9	91.6
XVIII ヤクーツク	289085	592	896	2928	2167	8000	2.8	7.4	11.2	36.6	74.0
XIX 極東	1881351	24096	21335	58885	45366	201307	10.7	12.0	10.6	29.3	77.0

表8．地域別・職業別の都市人口移動（ロシア共和国，1926年，⑦－Том 43，стр. 160～172）

地区	総人口 (A)	2年以内の恒常的居住者 労働者 (C)	職員 (D)	自営業者等 (E)	うち農業従事者 (F)	計 (B)	B/A	C/B	D/B	E/B	F/E
I 北部	234338	5734	10118	1901	900	21208	9.1	27.0	47.7	9.0	47.3
II レニングラード・カレル	2299070	70754	66002	21320	1997	405566	17.6	17.4	16.3	5.3	9.4
III 西部	511874	9377	12963	2998	743	55451	10.8	16.9	23.4	5.4	24.8
IV 中央工業	4951352	148198	160839	41070	7532	729748	14.7	20.3	22.0	5.6	18.3
V 中央黒土	1024762	6192	19967	5928	2631	93953	9.2	6.6	21.3	6.3	44.4
VI ビャック	236066	5501	9288	2311	802	39960	16.9	13.8	23.2	5.8	34.7
VII ウラル	1407074	29913	29179	6433	1516	162005	11.5	18.5	18.0	4.0	23.6
VIII バシキール	234250	2713	4922	1988	679	25617	10.9	10.6	19.2	7.8	34.2
IX ヴォルガ中流	1170712	13717	26098	12768	5029	138353	11.8	9.9	18.9	9.2	39.4
X ヴォルガ下流	977164	13159	19483	8865	3428	116749	11.9	11.3	16.7	7.6	38.7
XI クリムスク	330264	4168	7707	2760	317	43660	13.2	9.5	17.7	6.3	11.5
XII 北カフカース	1655124	28760	36587	15092	3577	221779	13.4	13.0	16.5	6.8	23.7
XIII ダゲスタン	85034	2220	2393	1197	238	14724	17.3	15.1	16.3	8.1	19.9
XIV カザク	539249	6945	12469	5540	1780	73839	13.7	9.4	16.9	7.5	32.1
XV キルギス	121080	1691	7037	2031	515	18678	15.4	9.1	37.7	10.9	25.4
XVI シベリア	1131930	25435	33483	13530	4092	211674	18.7	12.0	15.8	6.4	30.2
XVII ブリャータ・モンゴール	45576	464	1387	406	112	5978	13.1	7.8	23.2	6.8	27.6
XVIII ヤクーツク	15277	263	635	319	148	3221	21.1	8.2	19.7	9.9	46.4
XIX 極東	472458	12893	16185	10500	1496	88551	18.7	14.6	18.3	11.9	14.2

えそうであるが，大きな格差はない。

第8表は都市移動人口を職種別，地域別にみた表である。(1)移動率の高い地区はシベリア・極東地区，レニングラード地区，ダゲスタン自治共和国である。(2)移動者構成比については，7表と同じく労働者の比率が若干高い。

その他，このセンサスには白ロシア，ザカフカージァ，トルクメン，ウズベクの各共和国に関する同様の調査がある。内容的には，基本的にロシア共和国における内容と同様の傾向を示している。例としてトルクメン共和国における調査結果をみてみよう。第9表は年令，性別にみた人口移動数（率）である。ソ連邦全体，ロシア共和国のそれと大きな差はない。

表9．トルクメン共和国における人口移動
（1926年，⑦－Том 50, стр. 12）

性，年令		総人口（A）	2年以内の恒常的居住者（B）	B/A（%）
0－9才	計	263473	10103	3.8
	男	131986	5127	3.9
	女	131487	4976	3.8
10－19才	計	162490	9368	5.8
	男	99296	4600	4.6
	女	63194	5768	9.1
20－29才	計	190214	16692	8.8
	男	104388	6617	6.3
	女	85826	10075	11.7
30－39才	計	155823	9064	5.8
	男	81114	5398	6.7
	女	74709	3666	4.9
40－49才	計	99738	4440	4.5
	男	50117	2746	5.5
	女	49621	1694	3.4
50－59才	計	62310	1935	3.1
	男	35296	1114	3.2
	女	27014	821	3.0
60才以上	計	57433	1384	2.4
	男	29502	634	2.1
	女	27931	750	2.7
総計		1000914	52754	5.3
	男	531858	28407	5.3
	女	469056	24347	5.3

第10表は移動者における自治者職業分布であるが，労働者，職員の移動者比率の高いことと，自営業者等のそれの対照的な低さはロシア共和国等と共通している。ただし，トルクメン共和国における労働者，職員の移動者比率はきわめて高いことが特徴的である。

表10．自活移動者の職業分布
（トルクメン共和国，1926年，⑦－Том 50，стр．14～15）

職種		総人口(A)	比率(%)	2年以内の恒常的労働者（B）	B/A
I 労働者		25933	5.3	7253	28.0
	男	25080		7055	28.1
	女	853		198	23.2
II 職員		17942	3.7	7205	40.2
	男	13118		5149	39.3
	女	4824		2056	42.6
III 雇用者，自営業者等		417969	85.4	7923	1.9
	男	307161		5704	1.9
	女	110808		2219	1.9
III－1 農業従事者		403400	(82.4)	6283	1.6
総計		489549	100.0	26088	5.3
	男	368696		20894	5.7
	女	120853		5194	4.3

第11表は同じ問題を都市についてみた表である。総人口における労働者，職員人口比率が高いこと，移動者比率も，自営業者等もふくめて，共和国全体の平均より高いこと，なかんずく，職員の移動率はきわめて高いという点が特徴的である。10人のうち4人は2年以内に新しく居住した者である。

第12表は同じ問題を農村についてみた表である。自活者総数の95%ちかくが自営業者等であり，労働者，職員の比率はきわめて小さい。他方，人口移動の点では自営業者等の比率は極端に低く，労働者，職員のそれは相当高い。

1926年センサスは移動の方向，とくに都市と農村との関係における移動の方向に関する分析を欠落させているために，都市と農村との相互関連という視角から人口移動を見ることができない問題点をもっているのであるが，以上の諸表から次の点をいいうるであろう。(1)全体的な移動者比率は都市の方が高い。(2)移動者の年令に関していうと，20—29才層の移動が都市，農村をとわず高

表11. 都市移動者における自活者の職業分布
（トルクメン共和国，1926年，⑦－Том 50，стр. 18～19）

職種		総人口(A)	比率(%)	2年以内の恒常的居住者 (B)	B/A
I 労働者		13489	22.8	4084	30.3
	男	13011		3915	30.1
	女	478		179	37.4
II 職員		15388	26.0	6330	41.1
	男	10874		4438	40.8
	女	451		1892	41.9
III 雇用者，自営業者等		41042	17.6	1270	12.2
	男	2967		1163	12.0
	女	1751		107	14.2
III－1 農業従事者		2402		90	3.7
総計		59264	100.0	15063	25.4
	男	50866		12186	24.0
	女	8398		2877	34.3

表12. 農村地域移動者における自活者の職業分布
（トルクメン共和国，1926年，⑦－Том 50，стр. 22～23）

職種		総人口(A)	比率(%)	2年以内の恒常的居住者 (B)	B/A (%)
I 労働者		12444	2.9	3169	25.5
	男	12069		3140	26.0
	女	375		29	7.7
II 職員		2554	0.6	875	34.3
	男	2244		740	33.0
	女	310		135	43.5
III 雇用者，自営業者等		407547	94.7	6653	1.6
	男	297490		4541	1.5
	女	110057		1112	1.0
III－1 農業従事者		400998	(93.2)	6193	1.5
総計		430285	100.0	11025	2.6
	男	317830		8708	2.7
	女	112455		2317	2.1

い。(3)性別にみると格差はない。(4)自活者の職業分布の点から移動者をみると，総人口における自営業者等の比率はきわめて高いが，対照的に彼らの移動率は低い，とくに農村では極端に低い。他方，労働者，職員の移動率は相当に高い。この点は都市，農村の双方において共通している。(5)以上の点はロシア

共和国に限らずソ連邦全体の特徴といえる。

全体として，この段階における人口移動の特徴は総人口における比率は圧倒的に小さい労働者，職員の職種の枠内における相当大きい移動を中心としたものと性格づけられよう。

II　1926—70年の人口配置の基本的変化

1926年以降，59年のセンサスでは人口移動の調査項目はなく，70年センサスで再び実施されるわけである。ここでは，人口移動もその要因として含んだ，全体的な人口配置のこの期間の変動について，Б.С. ホレフ等の研究に依拠しながら概略的に見ておこう。

1926，39年における共和国別人口数をみたのが第13表である。この間の人口変動に関して諸共和国を2つのグループに区分できる。第1グループは人口増加率の相当高い共和国であり，ザカフカージュの各共和国と中央アジアの各共和国がそれに該当する。第2グループはロシア，ウクライナ，白ロシア，カザ

表13. 1926－1939年の調査間におけるソ連邦各共和国の人口数変動（④－151）

共和国	住民数（1000人）		変動率（%）
	1926年12月17日	1939年1月17日	
ロシア	93458.0	109278.6	116.9
ウクライナ	29042.9	30960.2	106.6
白ロシア	4983.2	5568.0	111.7
アゼルバイジャン	2313.8	3209.7	138.7
グルジア	2677.7	3542.3	132.3
アルメニア	881.3	1281.6	145.4
トルクメン	998.2	1254.0	125.6
タジク	1032.2	1485.1	143.9
ウズベク	4565.4	6282.5	137.6
カザフ	6074.0	6145.9	101.2
キルギス	1001.2	1459.3	145.7
計	147027.9	170467.2	115.9

フの各共和国であり，人口数増加率は低い。Б.С. ホレフは出生率の差と人口移動の結果であり，(④—150) 経済的開発，発展と関連をもっている，とのべている。

第14表はロシア共和国の地区別に人口変動をみた表である。東シベリア・極東地区人口は約1.5倍も増加（都市も農村も人口増加）し，中央工業地区人口は40%以上も増加（都市人口増加，農村人口安定），北西部，ウラル，西シベリア地区人口は全体の平均以上の増加をみせている。他方，中央農業地区では6.9%の人口減である。

表14. 1926－1939年の調査間におけるロシア共和国の主要地区の人口数変動（④－152）

地　　区	住民数（1000人）		変動率（%）
	1926年	1939年	
北部ヨーロッパ	3323.1	3940.8	118.6
西　方	10932.4	12337.3	112.9
中央工業地帯	14008.4	19766.3	141.1
中央農業地帯	17281.4	16086.9	93.1
ボルガ沿岸	14905.5	15672.8	105.1
南　方	9854.7	11459.1	116.3
ウラル	10754.7	13439.1	125.0
西シベリア	7416.5	8909.3	120.1
東シベリア，極東	4981.3	7667.0	153.9
計	93458.0	109278.6	116.9

次に，大祖国戦争中から戦後にかけてみていこう。東方諸地域の国民経済における意義は企業や労働力の移動もあり，ますます増大してくる。この期間に新地域の併合（ウクライナ西部州，白ロシア，リトアニア，ラトビア，エストニア，モルダビア等）があり，全体的な領土の広さ，人口数で変動があるが，共和国別の人口数変動は第15表のようである。ヨーロッパ部の諸共和国（3.6%増）にくらべてアジア諸共和国の人口増大の高さ（31.8%増）が特徴といえよう。戦争・占領による影響，出生率の格差，部分的には人口移動の結果であるといわれている（④—155，⑧—48，⑨—4）。

表15. 1939～1959年の調査間期におけるソ連邦共和国の人口数変動（④－156）

共和国	人口数（1000人）		変動率（%）
	1939年	1959年	
ロシア	108379	117534	108.4
ウクライナ	40469	41869	103.5
白ロシア	8910	8055	90.4
ウズベク	6336	8106	127.9
カザフ	6094	9310	152.8
グルジア	3540	4044	114.2
アゼルバイジャン	3205	3698	115.4
リトアニア	2880	2711	94.1
モルダビア	2452	2885	117.7
ラトビア	1885	2093	110.0
キルギス	1458	2066	141.7
タジク	1484	1980	133.4
アルメニア	1282	1763	137.5
トルクメン	1252	1516	121.1
エストニア	1052	1197	113.8
計	190678	208827	109.5

ソ連邦の経済地区ごとに同時期の人口数の変動を見たのが第16表である。ロシア共和国外の経済地区ではカザフ，中央アジア地区の人口増加率が高く，南西，白ロシア地区では減少している。ロシア共和国（平均8.4%の人口増加率）に関してみていくと，極東，東シベリア地区の増加率はきわめて高く，ウラル，西シベリアも高い。平均以下の地区は沿ボルガ，北，北西の各地区である。対照的に，中央，ボルガ・ビシャック，中央黒土地区の人口は減少しており，とくに中央黒土地区は減少率が激しい。この地区の農村地域からの人口流出という要因が大きいといわれている（④—158）。

次に，1959—70年間の人口数変動を経済地区別にみたのが第17表である。高い人口増加率を示している地区は，依然として，カザフ，中央アジア，ザカフカージャの各共和国といえる。ロシア共和国内についてみると，沿ボルガ，極

表16. ソ連邦経済地区ごとの，1939－59年の調査間期における人口数変動（④－157）

経済地区	人口数（1000人）		変動率（%）
	1939年	1959年	
北部，北西部	11179	11475	102.6
中央部	25308	24792	98.0
ボルガ，ビャック	8698	8521	95.0
中央黒土	10439	8697	83.0
ボルガ沿岸	12125	12453	102.7
北カフカース	10512	11786	112.1
ウラル	14444	18613	128.9
西シベリア	7937	10159	128.0
東シベリア	5185	6961	134.3
極東	2562	4347	169.7
ドネツ・ドニエプロ	14760	16549	112.1
南部	4852	5067	104.4
南西部	20857	20253	97.1
西部	5817	6002	103.2
ザカクカージャ	8028	9505	118.4
中央アジア	10530	13668	129.8
カザフ	6093	9310	152.8
白ロシア	8910	8055	90.4
モルダビア	2452	2884	117.6
計	190678	208827	109.5

東，東シベリアの地区の人口増加率が高く，ウラル，西シベリア地区では人口増加は停滞的である。ロシア共和国内部にみられる東方地区への人口配置の一定の停滞的傾向は，経済的開発政策の一定の変化（シベリア開発についていえば，全体的状況の変化については不明確な点が多いのだが総合的開発から拠点的開発へといわれる政策の変更）を基底としているのは確かのようである（⑩—46）。

以上みてきたように，1926年以降の人口配置変動の大きな特徴は，東方地域，中央アジア諸地域のより高い人口増加傾向，ヨーロッパ部分の人口増加の停滞ということである。出生率の格差も諸政策の影響も大きな要因となってい

表17. 1959～1970年の調査間期におけるソ連邦経済地区ごとの人口数変動（④－158）

経済地区	人口数（1000人）		変動率（%）
	1959年1月15日	1970年1月15日	
北・西部	10865	12157	111.9
中央部	25718	27652	107.5
ボルガ・ビャック	8252	8348	101.2
中央黒土	7769	7998	102.9
ボルガ沿岸	15975	18374	115.0
北カフカース	11601	14281	123.1
ウラル	14184	15185	107.1
西シベリア	11252	12109	107.6
東シベリア	6473	7463	115.3
極東	4834	5780	119.6
ドネツ・ドニエプロ	17766	20057	112.9
南・西部	19028	20689	108.7
南部	5075	6380	125.7
バルチック沿岸	6612	7580	114.6
ザカフカージャ	9505	12295	129.4
中央アジア	13682	19792	144.7
カザフ	9295	13009	140.0
白ロシア	8056	9002	111.7
モルダビア	2885	3569	123.7
計	208827	241720	115.8

る。ただし，1959年以降は，この傾向を基調としながらも，ヨーロッパ部分において人口が相当に増加する地域が出現するなど，「逆流」ともいいうる側面が現われている。1970年センサスにおける人口移動調査はこのような状況における調査である。

Ⅲ　1970年センサスにおける人口移動

1926年の調査とくらべた70年センサスにおける人口移動調査の特徴は[2]，居住年限に関する詳細な区分が消え（公表されなくなった），2年間以内の当該

地居住者を移動者として処理した，また，都市と農村との相互関係という視角が貫かれていること，ならびに，地域間移動の方向や移動量が把握されていること，であるといえる。

2年間以内居住者約2160万人のうち恒常的居住地の変更者は1390万人，男性690万人，女性700万人であり性別の差は少ない（⑪—8）。もっとも，中央アジア諸共和国，カザフ，アゼルバイジャン共和国のように「現地住民の流動性の伝統的に低い」（④--161）地域では男性の比率が高く，ロシア，ウクライナ，白ロシア等の共和国では女性の比率が高くなっている。

移動人口を年令グループ別（幼年グループ＝0—15才，労働能力グループ＝16—59才，女性は54才，老年グループ＝60才以上）にみたのが第18表である。ソ連邦全体でみると，移動人口の72％強が労働能力年令グループ，22％が幼年グループ，5％が老年グループである。都市と農村との関係という視角からこの点をみてみると，都市間の移動，農村から都市への移動においては労働能力年令グループの比率が全体平均より高く，幼年グループの比率が低い。基本的要因は独身者の移動の比率が多いということであろう。反対に，都市から農村への移動，農村間の移動においては労働能力年令グループの比率は平均以下であり，幼年グループの比率が高い。共和国別にみても都市と農村との間のこの関係は変わらない。ただ，中央アジア諸共和国やカザフ，アルメニア共和国においては，これらの相互関係は変わらないが，労働能力年令グループの比率は60％台で低い。

次に，共和国別に人口移動の状況をみていこう。

まず，全体的移動の中で大きな比率をしめているのはロシア，ウクライナ，カザフの各共和国のそれであり，この3共和国で全「流出数」の86％，全「流入数」の87％をしめる（共和国内の移動をふくめる）。

各共和国内外移動の比率をみた表が第19表である。これを見ると，ロシア共和国における外からの流入，外への流出の比率はきわめて低い。対照的に中央アジア諸共和国，カザフ，アルメニア共和国等は40％台の高さとなっており，約半分の移動者は共和国外から（へ）の流入（出）といえるのである。

表18. 年令グループ別移動人口分布（%）（ソ連邦，1970年，⑪－ToM 7，

年令グループ / 地域	移入総人口（%）			都市から都市への移入		
	幼 年	労働能力	老 年	幼 年	労働能力	老 年
ソ連邦	21.9	72.5	5.5	18.2	77.2	4.6
ロシア共和国	21.5	72.8	5.6	17.5	77.9	4.6
北 西	18.0	77.5	4.5	15.1	81.6	3.3
中 央	17.4	76.6	6.0	15.2	79.6	5.1
ボルガ・ビャック	20.4	73.5	6.1	17.5	78.2	4.3
中央黒土	20.7	72.9	6.3	18.5	76.0	5.5
ボルガ沿岸	21.0	72.9	6.1	17.2	77.8	5.0
北カフカース	25.5	67.6	6.9	20.4	73.1	6.4
ウラル	22.3	71.6	6.2	17.7	77.6	4.7
西シベリア	24.0	69.7	6.3	18.4	76.6	5.0
東シベリア	24.2	71.2	4.7	18.7	77.5	3.8
極 東	22.6	74.3	3.1	19.5	77.6	2.9
ウクライナ共和国	20.5	73.9	5.6	18.4	76.6	5.0
白ロシア	19.4	75.9	4.7	17.5	78.8	3.7
ウズベク	25.3	70.3	4.4	21.6	74.2	4.2
カザフ	27.2	67.8	5.0	20.5	75.2	4.3
グルジア	21.3	74.8	3.9	19.6	75.7	4.7
アゼルバイジャン	25.2	71.0	3.8	21.5	74.7	3.8
リトアニア	21.1	72.0	6.9	16.1	79.1	4.8
モルダビア	20.0	76.2	3.8	20.7	73.4	6.0
ラトビア	20.6	71.3	8.2	15.6	78.4	6.0
キルギス	27.1	67.3	5.7	24.5	70.3	5.2
タジク	30.5	64.8	4.7	24.4	71.1	4.5
アルメニア	27.5	67.2	5.3	25.1	70.2	4.7
トルクメン	21.4	75.5	3.0	20.5	76.8	2.6
エストニア	21.7	70.6	7.6	16.3	78.3	5.4

стр. 173〜183)

農村から都市への移入			都市から農村への移入			農村から農村への移入		
幼　年	労働能力	老　年	幼　年	労働能力	老　年	幼　年	労働能力	老　年
18.8	75.2	6.6	25.3	69.2	5.5	33.0	60.3	6.7
18.7	74.8	6.5	24.5	70.1	5.4	33.2	60.0	6.8
17.1	77.4	5.5	20.4	75.5	4.1	27.8	65.8	6.4
15.0	78.4	6.6	21.9	72.3	5.8	26.6	65.6	7.8
17.1	75.9	7.0	24.2	69.8	6.0	30.1	62.2	7.7
17.3	76.7	6.0	25.1	68.7	6.2	28.1	63.6	8.3
17.3	75.0	7.1	25.2	68.6	6.2	34.1	59.5	6.5
20.7	72.7	6.5	28.9	64.0	7.1	35.0	57.4	7.6
20.6	72.0	7.3	24.5	69.0	6.4	36.2	56.5	7.4
20.7	72.1	7.1	25.6	68.3	6.1	36.1	56.6	7.3
21.7	72.9	5.4	25.8	69.9	4.3	37.0	57.5	5.5
21.8	74.7	3.8	22.9	74.7	2.4	32.9	63.7	3.4
17.9	76.6	5.4	25.0	69.0	6.0	28.0	64.9	7.1
15.9	79.6	4.5	25.2	70.2	4.6	28.2	64.2	7.6
19.5	76.7	3.8	31.2	64.4	4.4	39.2	55.2	5.5
22.4	72.3	5.2	31.0	64.0	5.0	40.2	54.0	5.8
20.9	75.7	3.4	24.3	72.5	3.2	22.6	73.4	4.0
22.5	74.3	3.3	29.3	67.5	3.2	43.9	49.8	6.3
17.8	74.2	8.0	22.6	70.0	7.4	30.9	61.2	7.8
17.4	80.1	2.4	21.2	74.4	4.3	23.0	73.6	3.4
15.1	72.9	12.0	23.7	69.6	6.7	32.0	59.6	8.4
21.7	73.8	4.5	30.2	62.2	7.5	37.0	56.2	6.8
26.6	69.4	4.0	39.1	56.3	4.6	43.0	51.0	5.9
27.0	67.1	5.9	26.3	68.1	5.6	35.4	59.6	5.0
16.5	80.4	3.2	35.0	61.1	3.9	39.4	55.1	5.4
18.1	71.3	10.6	25.5	67.3	7.2	32.8	59.0	8.3

表19. 共和国別流出，流入人口数(%)（④－163）

共和国	調査までの2年以内に共和国に流入した人口数（%）	調査までの2年以内に共和国から流出した人口数(%)
ロシア	13.4	11.7
ウクライナ	26.7	25.4
白ロシア	29.4	29.1
ウズベク	41.7	54.6
カザフ	41.2	42.4
グルジア	24.3	46.4
アゼルバイジャン	31.5	48.6
リトアニア	15.3	14.1
モルダビア	33.8	37.8
ラトビア	32.6	24.9
キルギス	48.8	53.4
タジク	35.3	45.1
アルメニア	47.1	41.2
トルクメン	45.4	57.2
エストニア	36.4	24.2

表20. 共和国間の移動の大きさ(%)（④－166）

共和国	流入人口に対する流出人口の比率
ロシア	98
ウクライナ	98
白ロシア	99
ウズベク	129
カザフ	102
グルジア	141
アゼルバイジャン	133
リトアニア	99
モルダビア	106
ラトビア	90
キルギス	110
タジク	118
アルメニア	90
トルクメン	117
エストニア	84

中央アジア諸共和国等にみられるこの高い対外流出入率が，工業化のあり方や，有資格カードルの確保と定着という問題等に対して密接な関連をもった現象であることは容易に推測しうるのである。

共和国別人口移動における流入人口に対する流出人口の比率をみたのが第20表である。上述の中央アジア諸共和国，ザカフカージャ，カザフ共和国や，モルダビア共和国等の流出人口の比率の高いのが特徴的である。（ただし，対外的移動率の高いアルメニア共和国は流入人口比が高い。）

次に，ロシア共和国内部の経済地区ごとの状況をみてみよう。

まず，流出入人口の当該地域総人口に対する比率をみたのが第21表である。全体的には流入人口比率の方が若干高いわけであるが，同様の関係をみせている地区は北西，中央，沿ボルガ，北カフカー

ス，東シベリア，極東であり，極東地区はとくに流入比率が高い。逆に流出人口比率の方が高い地区はボルガ，ビャック，中央黒土，ウラル，西シベリアである。この段階で，ウラル，西シベリア地区の人口移動の流れが流出超過となっている点は注目すべき点といえようう。

表21．ロシア共和国経済地区別の総人口に対する流出，入人口の比率（%）（④－165）

経済地区	地区総人口に対する比率	
	流入人口	流出人口
ロシア共和国	0.9	0.8
北西部	3.2	2.3
中央部	2.2	1.6
ボルガ・ビャック	1.9	2.7
中央黒土	1.7	2.5
ボルガ沿岸	2.4	2.2
北カフカース	2.8	2.5
ウラル	2.5	3.3
西シベリア	2.7	3.5
東シベリア	3.8	3.4
極東	6.0	4.1

以上の諸特徴をもう一度まとめると，(1)総移動者数のうちロシア，ウクライナ，カザフの大共和国だけで85％以上をしめており，いわば先進的共和国ほど移動人口は増大するといえるだろう。(2)ロシア共和国等における人口移動が圧倒的に共和国内移動が中心であるのに対して，カザフ，中央アジアの諸共和国においては共和国外移動の比率が40％台に達しており高い。しかも流出比率の方がより高いのである。ソ連邦全体としての人口配置の変動（基本的には，中央アジア諸共和国人口の急速な増大）のなかでのこのような動きは興味深い。この点は後述する。(3)ロシア共和国内の各地区についていうと，東シベリア・極東の相変らずの流入人口増に対し，ウラル，西シベリアは流出人口増であり，東方地域，南方地域，ヨーロッパ部の接点的地域におけるこの変動も興味深い。(4)移動者人口を年令グループ別にみると，都市間移動，農村から都市への移動の動きにおいて労働能力グループの比重が高かった。

次に，これらの人口移動の地域間の方向に関して，とくに都市と農村との関係という視点を中心にしてみていこう。

都市間人口移動をみたのが第22表である。まず，ロシア共和国内移動について，流入人口が流出人口を上まわっている地区は北西，中央，沿ボルガ，東シ

表22. ソ連邦における都市間人口移動 (⑪－Том 7, стр. 9～156)

流出地域＼流入地域	ロシア	北西	中央	ヴォルガ・ビャック	中央黒土
ロシア	2789950	298040	470932	124683	74181
北西	274226	168266	33826	7265	5864
中央	447612	41469	278350	13740	9830
ヴォルガ・ビャック	137341	10232	15937	61831	1528
中央黒土	83834	7034	17591	1605	29116
ヴォルガ沿岸	328473	14818	26985	12120	5035
北カフカーズ	240863	16173	25492	3200	4657
ウラル	422811	14809	25428	12520	7004
西シベリア	305409	8393	14949	4630	3745
東シベリア	256258	6087	12870	3696	2974
極東	269734	7477	15519	3535	3804
ウクライナ	219836	33159	47827	6119	10560
白ロシア	40893	11645	9772	889	1025
ウズベク	54366	3764	12268	2037	1513
カザフ	123796	10444	16815	5012	3611
グルジア	19743	2002	4782	504	633
アゼルバイジャン	21012	1644	4673	854	959
リトアニア	9861	1821	2509	164	284
モルダビア	11973	2470	2801	400	452
ラトビア	13325	3319	3434	285	225
キルギス	22162	1284	2671	946	402
タジク	16646	1214	4444	441	878
アルメニア	6599	718	1639	334	256
トルクメン	13827	1183	3053	312	664
エストニア	9596	4065	1898	292	253
流入総計	3374404	376852	589756	143288	95916

ヴォルガ沿岸	北カフカース	ウラル	西シベリア	東シベリア	極東	ウクライナ	白ロシア
342757	226559	371601	288966	264457	306523	239999	45334
12682	11264	10901	5839	5996	9257	30573	9796
23607	12927	19042	13248	13023	19137	33992	9108
15881	3863	13459	4614	4971	4532	8741	1406
9477	4537	4345	2866	2840	3838	14402	1400
183982	15013	30107	14577	10770	13844	18584	3831
20914	121915	10251	8567	8875	19930	28737	3194
41379	18712	224286	27052	16116	14376	36243	5350
13950	14087	19421	175224	30287	20062	22723	3417
8841	10407	9916	23278	154041	23710	16973	2864
10424	12863	8648	13219	16848	176351	25817	3509
20802	24301	17330	12688	14856	29015	548822	12310
3570	2511	2662	2245	2155	2920	10628	89658
12818	4299	6421	4849	3079	2985	10707	1626
15859	12685	18098	21168	9886	9606	27672	5655
2379	6137	1149	624	682	751	5791	493
3588	5629	1232	688	599	946	4979	830
1077	526	517	321	364	1226	1612	1179
1170	789	1198	793	594	1097	8389	493
1134	686	801	510	510	1175	2728	1273
3419	1418	2706	4208	2110	2934	2618	331
2915	1731	2159	1232	942	614	3237	405
990	1497	385	334	178	224	1536	168
2806	2417	1611	893	463	313	2924	603
446	567	332	262	208	711	2081	471
415810	291805	428334	339850	301113	361133	874020	160877

流出地域＼流入地域	ウズベク	カザフ	グルジア	アゼルバイジャン	リトアニア
ロシア	41482	121135	6114	8630	9318
北西	1871	5163	735	552	1909
中央	4578	2550	909	1382	1978
ヴォルガ・ビャック	1532	4595	135	332	172
中央黒土	873	3020	201	482	208
ヴォルガ沿岸	7863	5370	747	1480	697
北カフカーズ	2912	3516	1914	2425	564
ウラル	9686	24929	421	691	641
西シベリア	7849	27846	424	586	430
東シベリア	2343	8207	285	315	610
極東	1743	5420	226	303	584
ウクライナ	4862	19702	2046	1734	2452
白ロシア	688	3499	392	373	1682
ウズベク	50988	8473	236	280	232
カザフ	10791	164313	458	416	655
グルジア	658	2008	15345	1590	146
アゼルバイジャン	620	2619	713	21633	96
リトアニア	243	786	48	70	41683
モルダビア	163	2040	130	85	165
ラトビア	237	671	87	124	1325
キルギス	5094	10660	33	180	56
タジク	4558	3366	42	100	84
アルメニア	336	798	617	1173	32
トルクメン	3201	4869	146	307	72
エストニア	124	350	23	41	342
流入総計	124061	355342	26478	36718	58347

モルダビア	ラトビア	キルギス	タジク	アルメニア	トルクメン	エストニア	流出総計
14514	13829	17846	13249	3450	10265	12027	3347115
1800	3244	660	353	180	398	4617	336282
1867	2890	1390	1290	561	1358	2258	523723
653	393	421	472	77	215	367	156852
429	475	288	275	81	270	364	106602
1118	1108	1420	2160	399	1979	749	385978
1123	880	781	1553	1368	3313	484	303627
2722	1102	3414	3159	241	915	995	513320
1826	631	6377	2390	267	1005	514	381694
967	582	1633	1034	180	543	420	293214
1888	1096	1417	531	72	180	736	313256
8124	3467	1250	1395	830	2667	2185	831682
512	2063	145	272	92	391	696	151984
428	416	3981	4804	325	3541	590	150993
2040	1005	6679	2385	381	1995	752	348993
165	230	158	108	2876	213	136	49659
259	364	60	173	3487	850	156	57851
60	1542	63	43	16	40	265	57511
15906	226	49	73	55	467	136	40350
156	26018	60	47	56	62	727	46896
56	149	18287	872	32	510	132	61172
265	149	637	18345	16	842	502	49194
60	84	16	130	9079	149	56	20833
243	125	488	464	152	15457	24	42902
84	738	56	100	24	11	16620	30661
42872	50425	49775	42468	22002	37460	35004	

ベリア，極東である。東方と西部諸地域の都市への人口移動（北西，中央地区の場合にはレニングラード，モスクワの役割が大きい。⑪—158）という流れといえるだろう。ウラル地区からはボルガ・ビャック地区をのぞいてすべての地区へ人口流出超過，西シベリアも沿ボルガ・ウラル地区をのぞいて他のすべての地区へ人口流出超過である。

次に，ソ連邦全体にわたる都市間人口移動をみてみよう。全体との関連でみるとロシア共和国内の流出超過地区は北カフカース，ウラル，西シベリア地区である。超過規模の大きいのはウラル（85000人），西シベリア（40000人）であろう。ウラル，西シベリア，地区はウクライナ，カザフ共和国との人的交流が盛んで，また，それらの地域への人口流出超過も大きいことがこの表で示されている。

全体の中で流出人口超過共和国は中央アジアの4共和国，ザカフカージャの2共和国である。中央アジア諸共和国にほぼ共通してみられる傾向は，(1)ロシア，ウクライナ，カザフ共和国との人口移動の比率が比較的高い，(2)ウラル，西シベリア，（トルクメン共和国の場合は北カフカース，西シベリア）からは流入超過である，(3)他方，ロシア共和国の他の地区，とくに中央，沿ボルガ地区に対しては大きく人口流出越過となっており，全体として，ロシア共和国に対しては流出超過である。

アゼルバイジャン，グルジア共和国は他の諸地域に対して全体的に流出超過である。

なお，あとの農村から都市への人口移動との関連で注目する必要のあるのはカザフ共和国である。第22表からうかがえるように，カザフ共和国の都市に対してはウラル，西シベリア地区，グルジア，アゼルバイジァン，中央アジア3共和国の都市が人口流出超過になっており，他方，ロシア共和国の北西，中央，極東地区，ウクライナ共和国の都市が大きな人口流入超過になっているのである。

以上の都市間人口移動の流れは，きわめて大づかみにいって，諸地域からの東シベリア，極東へむかっての東方への人口の流れと，ウラル・西シベリア→

中央アジア諸共和国→ロシア共和国の中央・沿ボルガ地区，ウラル・西シベリア・中央アジア・ザカフカージャ→カザフ→ロシア共和国の北西・中央地区という人口の流れを表わしている。量的にみた場合，それほど大きい流れであるわけでないが，興味深いのは最終的にはヨーロッパ中央部へ向う，この都市人口の流れである。

第23表は農村から都市への人口移動をみた表である。まず，当該地区内の農村から都市への移動者数をみると，ロシア共和国における中央（30万人），沿ボルガ（30万人），西シベリア（24万人），ウラル（24万人）各地区，ウクライナ共和国（62万人），カザフ共和国（18万人）が比較的大規模な人口移動を示しており特徴的な地域といえよう。

次に，ロシア共和国の経済地区間の移動をみてみると，流入人口が流出人口を超過している地区は北西，中央，ウラル，東シベリア，極東である。都市間人口移動と同様な傾向もあるが，ウラル地区は逆である。その原因はボルガ，ビャック（1.5万人）と沿ボルガ（2.8万人）地区の農村からのウラルの都市への人口移動である。

ソ連邦全体の中でロシア共和国各地区の人口移動状況をみると，人口流出超過地区はボルガ・ビャック，中央黒土，北カフカース，西シベリア地区である。ボルガ・ビャック地区や中央黒土，北カフカース地区の主な人口流出先は北西，中央地区，沿ボルガ，ウラル地区，カザフ共和国やトルクメン共和国であり，西シベリア地区のそれは，東シベリア，極東地区，カザフ，キルギス共和国である。つまり，ヨーロッパ中央部，東方地区，カザフ共和国や中央アジア共和国の一部の都市への農村人口流出という流れを指摘しうる。

ソ連邦全体でみると農村人口流出超過共和国はウクライナ，白ロシア，ウズベク，グルジア，アゼルバイジャン，モルダビア，キルギス，タジク共和国であるが，(1)対外的な人口流出規模は小さい，(2)中心的な流出先はロシア共和国の北西，中央部，カザフ共和国である。

以上の，農村から都市への人口移動についてまとめると，(1)都市間人口移動よりもさらに当該地域内移動比率が高く，地区・共和国外への流出数はあまり

表23. ソ連邦における農村から都市への人口移動 (⑪－Том 7, стр. 9～156)

流出地域＼流入地域	ロシア共和国	北西	中央	ヴォルガ・ビャック	中央黒土
ロシア	2458760	212529	393193	163089	128291
北西	185910	156506	10067	1957	1423
中央	369704	22095	304350	5191	4467
ヴォルガ・ビャック	198205	7379	13078	138279	592
中央黒土	165551	5269	21857	889	112640
ヴォルガ沿岸	381070	5220	11895	7161	2113
北カフカーズ	232070	6035	12690	1438	2253
ウラル	291745	3043	7610	3861	1347
西シベリア	290908	2453	4080	1815	1028
東シベリア	201064	1738	2649	1113	800
極東	132768	1971	3883	1221	1428
ウクライナ	88457	15641	28793	2808	2969
白ロシア	23053	7865	6339	304	492
ウズベク	28128	1816	12349	477	627
カザフ	61350	4566	7049	2433	1065
グルジア	5310	394	932	204	44
アゼルバイジャン	3711	206	906	260	196
リトアニア	2668	558	1214	24	60
モルダビア	12151	2526	3552	547	530
ラトビア	2015	531	694	12	20
キルギス	8772	470	1397	499	301
タジク	5278	740	2461	84	456
アルメニア	1725	205	322	216	12
トルクメン	3193	446	990	8	278
エストニア	1100	270	486	4	16
流入総計	2716316	249205	463266	171537	135849

ヴォルガ沿岸	北カフカース	ウラル	西シベリア	東シベリア	極東	ウクライナ	白ロシア
379020	215753	321930	285725	211260	136999	85802	10997
3755	2751	4030	1896	1728	912	5724	2022
7349	4391	7852	4462	3635	4355	13598	3105
11646	2344	15175	3663	3468	2317	4945	419
10227	5040	3817	1881	1896	1591	20476	597
306607	6591	28482	4954	3862	3849	5226	713
13536	178545	5793	3690	3079	4680	15497	732
14712	3993	239455	9524	4649	3370	5180	825
4989	4471	10308	240676	15356	5552	5236	754
2597	2602	3563	9826	167139	8909	3565	731
3317	4853	3167	5041	6326	101365	5944	908
7602	7040	7723	3854	4367	6011	617899	4218
1621	1170	1536	965	1038	644	6781	155891
4830	999	2819	1971	1161	1019	2698	334
7749	6566	13695	9920	4368	3671	11901	3427
759	1857	513	246	155	162	1405	80
414	916	376	175	90	112	841	20
238	173	177	28	41	14	261	224
1191	418	1898	659	359	273	4474	104
217	85	148	85	49	50	314	283
1058	441	1295	1299	1130	878	1352	72
260	230	478	287	192	86	725	28
292	295	120	123	91	33	234	36
490	197	414	242	81	47	148	56
85	40	64	24	12	79	229	4
407499	238197	353824	306188	225266	150831	700930	177041

流出地域＼流入地域	ウズベク	カザフ	グルジア	アゼルバイジャン	リトアニア
ロシア	12907	65685	1769	2761	1993
北西	743	1706	84	101	505
中央	829	4647	181	353	363
ヴォルガ・ビャック	720	4191	55	65	68
中央黒土	403	3281	66	90	64
ヴォルガ沿岸	8317	9121	183	461	141
北カフカーズ	974	6061	910	1354	112
ウラル	2514	9712	70	102	133
西シベリア	2006	21369	34	81	36
東シベリア	834	3652	63	89	232
極東	503	1733	115	53	116
ウクライナ	1209	12017	376	286	613
白ロシア	190	2502	85	146	1273
ウズベク	54422	13685	28	141	12
カザフ	4966	183544	142	115	177
グルジア	178	1248	28299	769	20
アゼルバイジャン	149	1412	465	26143	12
リトアニア	8	268	11	—	54053
モルダビア	113	2511	203	65	203
ラトビア	56	245	1	4	297
キルギス	2560	7832	22	4	20
タジク	2024	1596	3	12	4
アルメニア	220	452	231	1128	4
トルクメン	734	1896	9	10	—
エストニア	36	187	22	36	52
流入総計	80266	295653	31944	32041	58859

モルダビア	ラトビア	キルギス	タジク	アルメニア	トルクメン	エストニア	流出総計
2422	3820	6060	3588	771	3067	4932	2665334
160	1094	165	114	28	40	2415	200814
382	826	253	201	64	222	981	395709
187	144	163	236	8	127	172	209705
108	236	134	96	36	179	268	191585
152	280	736	832	35	641	140	403048
255	197	442	386	528	1275	184	260977
339	209	798	595	32	315	168	312737
321	221	2269	662	12	174	168	324251
177	128	591	332	20	46	36	211560
321	279	493	122	8	44	324	143731
5818	1688	321	306	246	383	1303	735140
176	2389	57	52	47	68	488	193198
60	120	1860	2605	135	2047	220	106504
693	374	4899	838	149	496	524	273595
24	44	28	4	1453	13	60	38935
4	—	24	12	1921	122	16	34852
4	363	8	—	—	—	28	57896
48200	357	58	28	70	166	64	68796
24	25013	—	8	—	4	128	72832
28	73	32312	482	—	274	112	53915
69	8	342	20262	—	162	56	30569
28	—	8	24	12436	78	4	16608
—	—	28	67	19	10233	4	16397
4	122	—	—	20	1	17340	19153
58143	34651	46275	28370	21183	17196	25407	

多くはない。(2)主な流出先はロシア共和国の北西，中央部地区，カザフ共和国である。(3)地域内移動と合計すると，ロシア共和国の中央，沿ボルガ，ウラルの各地区，ウクライナ共和国，カザフ共和国の都市は，諸農村地域からの移動者の中心的結集点といえる。

第24表は都市から農村への人口移動をみた表である。まず，ロシア共和国内についてみると，中央，ウラル，西シベリア地区内部の人口移動の規模が大きいのが特徴的である。次に地区間人口移動をみると，ウラル地区の人口流出超過，極東地区の人口流入超過が目立つ。ウラルの都市からは沿ボルガ，北カフカース，西シベリア，極東の農村への人口流出が大きな超過となっている。他方，極東地区の農村へは中央，ウラル，西シベリア，東シベリアの諸都市からの人口移動が大きい比重をしめている。

ロシア共和国の各地区と他共和国との関係をみると，人口流出超過になっている地区はウラル，西シベリアである。上述の流出先の他にウラル地区からはウクライナ共和国へ，西シベリア地区からはウクライナ，キルギス共和国へそれぞれ大きく人口流出超過となっている。

ソ連邦全体でみると，流出超過共和国はウクライナ，カザフ，中央アジア3共和国，ザカフカージャの共和国等である。ウクライナ，カザフ共和国の大きな人口流出超過先は中央，中央黒土，北カフカース，極東を中心とするロシア共和国であり，中央アジア3共和国のそれはロシア共和国の中央，北カフカース地区が中心である。

この問題に関しても，人口の都市間移動と同じように，(1)ヨーロッパ・ロシア中央部農村への中央アジア諸共和国等の都市からの人口移動がみられ，また，(2)ロシア共和国内部では，ウラル，西シベリア地区における人口流動性の激しさが如実に示されている，といえよう。

次に農村間の人口移動を第25表でみよう。

ロシア共和国の各地区についてみてみると，まず，西シベリア，北カフカース，沿ボルガ，中央の地区等における農村間人口移動規模の大きい点が特徴的であり，この点はこれまでの各種の人口移動においてみられたこれらの地区の

特徴と一致する。次に各地区間の人口移動関係についてみていくと，流入人口超過地区は北西，中央，北カフカース，極東である。他共和国との関係も含めてみても同様であり，北カフカースにはカザフ共和国から大規模な人口移動がある。逆に，ウラル，シベリア地区からはカザフ共和国へ大規模な人口移動があり，流出超過となっている。この種の移動でもこの2地区は人口流出源となっているようである。

次に，ソ連邦を全体としてみると，カザフ共和国は域内移動も激しく，また，ほぼ全ての他地域に対して（中心的流出先はロシア，ウクライナ，白ロシア，キルギス各共和国であるが，人口流出超過になっており，域内農村の大きな変動を暗示している（いわゆる「フルシチョフ農政」の意味，役割と，その結果が大きな関連をもっているであろう)。中央アジア諸共和国においても人口流出が若干超過しているが，移動規模（対内・外）そのものは総体的に小さい。

以上の諸表からいくつかの地域の対外的人口移動関係をより明確な形で把握するために，その地域と他地域との人口流出入状況をまとめてみたのが第26表である。とりあげる地域として全体的に人口流動性の高いロシア共和国の中央，ウラル，西シベリア，極東の各地区，ウクライナ，カザフ，キルギス各共和国を選んだ。

中央地区について。都市間人口移動に関しては，北西，極東をのぞいてほぼ全地域からの流入超過状態になっている。とくに流入規模の大きいのは中央黒土，北カフカース，ウラル各地区，ウクライナ，カザフ，ザカフカージャ，中央アジアの各共和国からである。農村から都市への人口移動に関しては，都市間人口移動とほぼ同様のことがいえよう。ただし，ウラル地区からは流入超過になっておらずまた，ウズベク共和国からの大きな流入超過状況をのぞくと，中央アジア，サカフカージャの諸共和国農村からの流入超過人口は都市間人口移動ほど大きくはない。次に，都市から農村への人口移動について，極東農村への比較的大規模な人口流出超過が特徴的であるが，ほぼ都市間人口移動と共通した傾向を示している。ウラル地区，ウクライナ，ウズベク，カザフ諸共和

表24. ソ連邦における都市から農村への人口移動（⑪－Том 7, стр. 9～156）

流出地域＼流入地域	ロシア共和国	北西	中央	ヴォルガ・ビャック	中央黒土
ロシア	1019144	98936	139713	50167	38881
北西	96988	67671	8738	2137	2507
中央	136190	9718	94514	2655	3115
ヴォルガ・ビャック	50651	2864	3678	29929	472
中央黒土	34346	1924	3441	408	20314
ヴォルガ沿岸	109853	3342	5886	3340	2207
北カフカーズ	104066	4077	5017	1034	2253
ウラル	151893	3471	6449	5699	3363
西シベリア	133775	2020	4355	2026	1571
東シベリア	99974	1919	3213	1501	1314
極東	95880	1189	3656	1278	1637
ウクライナ	67886	9958	11297	1479	5618
白ロシア	9952	1867	1462	296	268
ウズベク	17376	620	2746	632	681
カザフ	48204	3312	5628	2439	1873
グルジア	4976	238	457	120	228
アゼルバイジャン	5280	381	678	60	228
リトアニア	2134	484	292	60	48
モルダビア	2840	472	477	196	144
ラトビア	2857	919	591	84	80
キルギス	6893	163	824	204	196
タジク	5969	237	1119	176	240
アルメニア	1380	88	180	44	52
トルクメン	3896	136	964	164	128
エストニア	2030	1045	396	24	52
流入総計	1200896	118860	166848	56145	48717

ヴォルガ沿岸	北カフカース	ウラル	西シベリア	東シベリア	極東	ウクライナ	白ロシア
105311	121764	110511	128306	100872	119482	50859	13827
2508	5244	1850	1711	1218	2896	6809	3451
3833	4292	2554	3838	3532	7524	6362	1777
2662	2036	2153	2172	1751	2682	1859	240
1512	1584	680	728	1078	2501	1650	360
70002	5720	5320	3815	4721	5257	3593	1157
5097	70659	1882	3628	2443	7780	4599	1061
11117	13525	88098	10542	4068	5121	9985	1903
3800	9010	4168	93373	6627	6709	6294	1211
2241	5094	2027	5169	71265	6143	4236	1239
2326	4349	1573	3209	4035	72456	4912	990
3929	11357	2546	3754	4282	13090	154491	4119
630	1004	524	629	1189	1795	1728	29835
4028	2513	2255	1684	903	1222	3384	614
5366	8146	5168	9217	3137	3582	11260	3102
453	2541	183	137	100	447	832	80
666	2297	248	156	139	407	716	152
44	135	74	53	97	355	296	249
195	438	157	266	128	327	2007	144
89	111	124	162	109	472	292	432
654	931	640	1650	622	929	804	172
948	1319	701	595	204	346	592	80
90	605	40	100	64	105	164	36
662	1247	147	210	110	116	472	188
42	130	48	63	77	137	356	220
123131	154543	123370	146996	112037	142812	228289	53262

流出地域＼流入地域	ウズベク	カザフ	グルジア	アゼルバイジャン	リトアニア
ロシア	5351	26419	2646	1392	1451
北西	132	1147	162	109	465
中央	408	2046	360	294	136
ヴォルガ・ビャック	124	921	102	23	32
中央黒土	60	468	87	9	24
ヴォルガ沿岸	1223	2590	386	261	44
北カフカーズ	593	2020	597	400	56
ウラル	1334	6504	331	82	88
西シベリア	905	7778	247	89	48
東シベリア	338	1782	166	71	285
極東	234	1066	174	42	36
ウクライナ	633	6474	810	283	220
白ロシア	184	1162	136	12	84
ウズベク	19864	4011	201	83	20
カザフ	1782	73531	305	311	381
グルジア	60	146	5036	415	—
アゼルバイジャン	331	266	250	3577	16
リトアニア	8	175	12	2	13960
モルダビア	4	935	53	17	—
ラトビア	28	85	43	27	217
キルギス	1110	2343	25	40	—
タジク	890	700	29	1	—
アルメニア	92	92	163	451	—
トルクメン	567	740	45	36	—
エストニア	—	81	7	3	48
流入総計	30904	117168	9851	6652	16401

モルダビア	ラトビア	キルギス	タジク	アルメニア	トルクメン	エストニア	流出総計
4192	2615	6160	980	663	637	1812	1138147
488	687	184	29	24	20	592	111287
514	340	195	167	80	104	236	149209
208	92	70	60	12	4	76	54474
140	112	44	12	—	48	52	37412
376	144	430	195	100	122	192	120667
340	136	285	118	76	112	112	114551
930	320	848	209	154	117	96	174794
528	228	2815	106	149	69	196	154438
384	228	753	56	32	10	120	109674
268	172	516	20	16	28	80	104434
1795	584	308	121	189	152	584	238649
180	607	72	44	12	6	156	44170
120	20	1183	1072	40	299	112	48399
953	636	3244	160	64	161	733	144917
112	48	28	24	439	—	16	12212
68	—	12	4	316	10	48	11046
28	482	—	1	—	—	40	17387
8008	40	20	—	—	2	12	14082
24	16167	40	—	—	—	196	20405
24	36	10753	74	4	2	329	22609
100	24	297	9534	64	32	573	18889
—	8	52	4	2002	2	—	4446
64	4	134	25	44	2582	4	8801
24	100	4	—	—	—	12269	15142
15692	21371	22307	12047	3837	3885	16881	

表25. ソ連邦における農村間の人口移動（⑪－Том 7, стр. 9～156）

流出地域＼流入地域	ロシア共和国	北西	中央	ヴォルガ・ビャック	中央黒土
ロシア	1336522	89237	155535	73212	58018
北西	82903	66297	4980	1264	1256
中央	145794	7018	115920	1760	2615
ヴォルガ・ビャック	88642	2903	4877	56058	764
中央黒土	66629	1931	7368	536	43141
ヴォルガ沿岸	160967	1849	5999	3523	2328
北カフカーズ	173914	2355	4059	1602	2097
ウラル	154657	2010	3854	2874	1413
西シベリア	212771	1647	3085	2636	1513
東シベリア	146458	960	1964	1881	852
極東	93364	939	2347	806	1867
ウクライナ	51554	10100	8585	1228	3133
白ロシア	11107	1717	1958	172	348
ウズベク	8467	200	2169	136	196
カザフ	65016	3911	5351	2694	1888
グルジア	3744	56	233	64	40
アゼルバイジャン	1694	72	128	12	72
リトアニア	729	136	101	4	8
モルダビア	3072	788	773	124	56
ラトビア	982	391	209	16	8
キルギス	5780	160	707	64	92
タジク	1707	61	846	4	28
アルメニア	619	28	60	16	36
トルクメン	801	24	366	4	4
エストニア	678	345	92	24	16
流入総計	1493850	107258	177277	77810	63987

ヴォルガ沿岸	北カフカース	ウラル	西シベリア	東シベリア	極東	ウクライナ	白ロシア
161574	194719	142455	200653	145898	104326	43000	9333
1505	3258	1171	1026	825	761	3993	1974
3014	3988	1994	2022	1642	4246	5448	1203
7252	3891	4311	3309	2611	2119	2538	277
2575	3926	907	883	900	4186	4567	228
119091	8426	9630	4004	3532	2421	2902	609
8854	141423	3282	3112	2198	4604	5494	1288
9053	11301	111208	7156	2844	2668	5537	942
5618	10064	6169	170963	6752	4084	6238	1077
2751	3762	2391	5644	121238	4787	3075	732
1577	4275	1325	2458	3242	74360	2816	661
3082	8895	3196	2670	3527	6583	299980	3052
968	1615	562	571	1265	1407	3123	50539
1593	1260	872	982	332	655	1630	104
7435	12116	12235	11976	3364	3310	14878	6516
273	2777	29	103	56	109	328	16
254	935	28	40	60	93	120	16
32	24	28	3	20	17	92	194
247	294	220	234	80	224	3220	120
5	111	64	112	25	41	140	539
497	806	477	1529	543	889	420	44
209	235	176	78	24	34	152	32
23	345	8	51	30	22	88	24
100	199	20	49	17	18	88	8
8	32	20	47	66	20	100	12
176368	224642	160442	219196	155443	118207	367875	70733

流出地域＼流入地域	ウズベク	カザフ	グルジア	アゼルバイジャン	リトアニア
ロシア	4478	48961	932	579	1415
北西	144	1367	20	16	136
中央	209	1843	112	26	28
ヴォルガ・ビャック	124	2219	43	5	28
中央黒土	88	734	69	2	4
ヴォルガ沿岸	1287	5197	100	9	4
北カフカーズ	588	3052	342	475	96
ウラル	622	11565	79	8	44
西シベリア	984	18688	71	14	100
東シベリア	164	3036	42	20	220
極東	220	1125	50	—	24
ウクライナ	332	9507	236	54	324
白ロシア	108	2376	90	22	875
ウズベク	43564	8165	90	219	28
カザフ	2386	181667	102	555	368
グルジア	76	42	17989	170	—
アゼルバイジャン	187	193	121	7416	—
リトアニア	16	92	—	1	43767
モルダビア	4	2137	77	12	12
ラトビア	8	48	1	—	728
キルギス	635	3373	12	120	4
タジク	1883	350	6	—	—
アルメニア	64	92	63	1254	—
トルクメン	606	402	28	5	4
エストニア	—	28	5	1	16
流入総計	54391	257644	19839	10408	47541

モルダビア	ラトビア	キルギス	タジク	アルメニア	トルクメン	エストニア	流出総計
1999	2123	6198	514	224	252	2370	1458900
236	711	90	66	—	12	965	92633
143	296	153	53	8	33	168	155517
132	64	131	24	—	20	68	94315
226	20	61	32	32	28	56	72776
175	168	309	97	16	75	64	171979
156	120	320	44	88	54	76	186107
388	140	784	44	8	4	112	174934
247	244	3425	90	52	20	553	244574
148	128	587	40	8	6	168	154832
124	112	318	24	12	—	44	98894
2516	528	170	44	12	32	336	368677
128	1629	42	13	—	—	64	70116
72	48	1975	1403	40	326	248	66379
951	440	6441	128	4	60	512	280024
12	36	36	—	1132	—	48	23629
—	4	4	16	770	20	4	10565
32	850	—	16	—	—	12	45801
26569	185	48	—	16	—	—	35472
12	26403	—	—	—	4	90	28955
64	24	14657	69	8	—	232	25482
56	—	500	19484	12	4	264	24450
8	—	104	—	6006	2	4	8328
—	16	—	18	—	3034	—	5010
16	92	12	—	—	—	15409	16369
32451	32418	30195	21705	8823	3734	19633	

表26. 地域からみた移動人口流出入計（△＝流出）

地域	中央地区				ウラル	
	都市間	農村から都市	都市から農村	農村間	都市間	農村から都市
ロシア	23320	23489	3523	9741	△51210	30185
北西	△ 7648	△12028	△ 980	△ 2938	△ 3908	987
中央	0	0	0	0	△11386	242
ヴォルガ・ビャック	2197	7887	1023	3117	939	11314
中央黒土	7761	17390	326	4753	△ 2659	2470
ヴォルガ沿岸	3378	4546	2053	2985	△11272	13769
北カフカーズ	12565	8299	725	71	△ 8761	1800
ウラル	6386	△ 242	3895	1860	0	0
西シベリア	1701	△ 382	517	1063	△ 7631	784
東シベリア	△ 153	△ 986	△ 319	322	△ 6200	△ 1086
極東	△ 3618	△ 472	△ 3868	△ 1899	△ 5728	△ 203
ウクライナ	13835	15195	4935	3137	△18913	2543
白ロシア	664	3234	△ 315	755	△ 2688	711
ウズベク	7690	11520	2338	1960	△ 3265	305
カザフ	4265	2402	3582	3508	△ 6831	3983
グルジア	3873	751	97	121	728	443
アゼルバイジャン	3291	553	384	102	541	274
リトアニア	351	851	156	73	△ 124	44
モルダビア	934	3170	△ 37	630	△ 1524	1559
ラトビア	544	△ 132	251	△ 87	△ 301	△ 61
キルギス	1281	1144	629	554	△ 708	497
タジク	3154	2260	952	793	△ 1000	△ 117
アルメニア	1078	258	100	52	144	88
トルクメン	1695	768	860	333	696	99
エストニア	△ 360	△ 495	160	△ 76	△ 663	△ 104
流入総計	65795	64968	17615	21596	△85118	40449

地区		西シベリア地区				極東地区			
都市から農村	農村間	都市間	農村から都市	都市から農村	農村間	都市間	農村から都市	都市から農村	農村間
△41382	△12202	△16443	△ 5183	△ 5469	△12121	36789	4231	23602	10962
△ 1621	△ 839	△ 2554	△ 557	△ 309	△ 621	1780	△ 1059	1707	△ 178
△ 3895	△ 1860	△ 1701	382	△ 517	△ 1063	3618	472	3868	1899
△ 3546	1437	△ 16	1848	146	673	997	1096	1404	1313
△ 2683	△ 506	△ 879	853	△ 1298	△ 630	34	163	864	2319
△ 5797	577	627	△ 35	15	△ 1614	3420	532	2931	844
△11643	△ 8019	△ 5520	△ 781	△ 5382	△ 6952	8067	1208	3431	329
0	0	7631	△ 784	6374	987	5728	203	3548	1343
△ 6374	△ 987	0	0	0	0	6843	511	3500	1626
△ 2041	△ 453	△ 7009	△ 5530	△ 1458	△ 1108	6862	2583	2108	1545
△ 3548	△ 1343	△ 6843	△ 511	△ 3500	△ 1626	0	0	0	0
△ 7439	△ 2341	△10035	△ 1382	△ 2540	△ 3568	3198	67	8178	3767
△ 1379	△ 380	△ 1172	211	△ 582	△ 506	△ 589	△ 264	805	746
921	250	△ 3000	△ 35	779	△ 2	1242	516	988	435
△ 1336	670	△ 6678	△11449	1439	△ 6712	4186	1938	2516	2185
△ 148	△ 50	200	212	△ 110	32	525	47	273	59
166	20	102	94	67	26	643	59	365	93
△ 14	△ 16	△ 109	△ 8	5	△ 97	642	△ 102	319	△ 7
△ 773	△ 168	△ 1033	338	△ 262	△ 13	△ 791	△ 48	59	△ 100
△ 196	76	△ 121	△ 136	△ 66	△ 132	79	△ 229	300	△ 71
△ 208	△ 307	△ 2169	△ 970	△ 1165	△ 1896	1517	385	413	571
496	132	△ 1158	△ 375	489	△ 12	83	△ 36	326	10
△ 114	0	67	111	△ 49	△ 1	1521	25	89	10
30	16	△ 112	68	141	29	33	3	88	18
△ 48	△ 92	△ 252	△ 76	△ 133	△ 506	△ 25	△ 242	57	△ 24
△51428	△14392	△41913	△18580	△ 7456	△25479	47784	6350	38378	18654

地域	ウクライナ				カザ	
	都市間	農村から都市	都市から農村	農村間	都市間	農村から都市
ロシア	20163	△ 2655	△17027	△ 8554	△ 2661	4335
北西	△ 2581	△ 9917	△ 3149	△ 6107	△ 5281	△ 2860
中央	△13835	△15195	△ 4935	△ 3137	△ 4265	△ 2402
ヴォルガ・ビャック	2622	2137	380	1310	△ 417	1758
中央黒土	3842	17507	△ 3968	1434	△ 591	2216
ヴォルガ沿岸	△ 2218	△ 2376	△ 336	△ 180	△ 489	1372
北カフカーズ	4436	8457	△ 6758	△ 3401	831	△ 505
ウラル	18913	△ 2548	7439	2341	6831	△ 3983
西シベリア	10035	1382	2540	3568	6678	11449
東シベリア	2117	△ 802	△ 46	△ 452	△ 1679	△ 716
極東	△ 3198	△ 67	△ 8178	△ 3767	△ 5865	△ 1938
ウクライナ	0	0	0	0	△ 7970	116
白ロシア	△ 1682	2496	△ 2391	71	△ 2156	△ 925
ウズベク	5845	1489	2751	1522	7682	8719
カザフ	7970	△ 116	4786	5371	0	0
グルジア	3745	1029	22	92	1550	1106
アゼルバイジャン	3245	555	433	66	2203	1297
リトアニア	△ 840	△ 352	76	△ 232	131	91
モルダビア	265	△ 1344	212	704	0	1818
ラトビア	△ 739	△ 1374	△ 292	△ 388	△ 334	△ 129
キルギス	1368	1031	496	250	3981	2933
タジク	1842	419	471	108	981	758
アルメニア	706	△ 12	△ 25	76	417	303
トルクメン	257	△ 235	320	56	2874	1400
エストニア	△ 104	△ 1074	△ 228	△ 236	△ 402	△ 337
流入総計	42041	△ 143	△10396	△ 1094	6296	21485

フ		キルギス			
都市から農村	農村間	都市間	農村から都市	都市から農村	農村間
△21785	△16055	△ 4316	△ 2712	△ 732	418
△ 2165	△ 2544	△ 624	△ 305	21	△ 70
△ 3582	△ 3508	△ 1281	△ 1144	△ 629	△ 554
△ 1518	△ 475	△ 525	△ 336	△ 134	67
△ 1405	△ 1154	△ 114	△ 167	△ 152	△ 31
△ 2776	△ 2238	△ 2301	△ 322	△ 224	△ 188
△ 6126	△ 9064	△ 637	1	△ 646	△ 486
1336	△ 670	708	△ 497	208	307
△ 1439	6712	2169	970	1165	1896
△ 1355	△ 328	△ 477	△ 539	131	44
△ 2516	△ 2185	△ 1517	△ 385	△ 413	△ 571
△ 4786	△ 5371	△ 1368	△ 1416	△ 496	△ 250
△ 1940	△ 3393	△ 186	△ 15	△ 100	△ 2
2229	5779	△ 1113	△ 700	73	1340
0	0	△ 3981	△ 2933	901	3068
△ 249	△ 60	125	6	3	24
△ 45	△ 362	△ 120	20	△ 28	△ 116
△ 206	△ 276	7	△ 12	0	△ 4
△ 18	1188	△ 7	30	△ 4	△ 16
△ 551	△ 392	△ 89	△ 73	4	△ 24
△ 901	△ 3068	0	0	0	0
540	222	△ 235	△ 140	223	431
28	88	△ 16	8	48	96
579	342	△ 22	△ 246	132	0
△ 652	△ 484	△ 76	△ 112	△ 325	△ 260
△27757	△21842	△12914	△ 8295	△ 301	4705

国の諸都市からかなりの人口流入超過となっている。最後に農村間人口移動も同様な傾向であるといえる。中央地区は，全体的に，北西，極東地区の都市，農村に対して人口を流出しているが，その他のほぼ全地域の都市，農村から人口を流入させている，人口集中地域といえる。

ほぼ同様な性格をもつ地域として，極東地区をあげることができる。同表からもわかるように，すべての人口移動形態において，ほぼ全地域から流入超過の状態にあるといえよう。とくに，北カフカース，ウラル，東・西シベリアの各地区，カザフ共和国からの流入人口超過は大きい。

これらの地区とは対照的に，人口移動に関してはきわめて悪条件下におかれているのが西シベリア地区であり，このような状況の地域は，この段階のソ連においては他に存在しない。都市間人口移動に関しては，ウラル地区からかなりの流入人口超過があるものの，ウクライナ，カザフ，キルギスの諸共和国や東シベリア，極東，北カフカースの各地区に対して大きな流出人口超過状態にある。農村から都市への人口移動については，東シベリア地区とカザフ共和国に対して大きな流出超過状況にあり，全体的にも人口流出超過である。都市から農村への人口移動は都市間移動と同様の傾向をもっており，人口流出超過が大きい。最後に，農村間人口移動についても，やはり，北カフカース地区，ウクライナ，カザフ，キルギス共和国への人口流出超過状態がみられるのである。全体的にみると，ウラル地区の都市からは比較的大きな人口流入超過があるのであるが，北カフカース，東シベリア，極東の各地区，カザフ，ウクライナ，キルギス共和国等に対してはすべての移動形態で大きな人口流出超過状況になっている。いわば，合計的には人口流出一方の地域である(3)。

ウラル地区に関してみてみよう。農村から都市への人口移動においてはボルガ・ビャック，沿ボルガ地区から大規模な流入人口超状況にあるために，全体的には大きな流入人口超過地区となっているが，他方，都市間人口移動においては，沿ボルガ地区に対してはほぼ同数の流出人口超過となっているなど，農村から都市への人口移動における流入超過人口数の約2倍の都市人口を流出超過にしている。都市から農村への人口移動や農村間人口移動に関しても，北カ

フカースや東・西シベリア地区，ウクライナ共和国等に対して大きな人口流出超過状況になっており，全体的には流出人口超過である。他地域の農村から多くの人口を都市に集中させながらも，総合的には大きな流出人口超過地区となっている。

ウクライナ共和国について。都市間人口移動に関しては，中央地区に対して大きな人口流出超過であるが，他方，ウラル，西シベリアの各地区，ウズベク，カザフ共和国等からの大きな人口流入超過があり，全体では4万人の流入人口超過状態となっている。農村から都市への人口移動については，中央黒土，北カフカース地区の農村から大きな人口流入超過があるが，ほぼ同数の移動者が北西，中央地区に対して流出しており，全体的には均衡状態に近い。都市から農村への人口移動や農村間人口移動に関しては，ウラル，西シベリア地区やカザフ共和国からの流入人口超過，北西，中央，北カフカースの各地区への流出人口超過という状況をみせており，若干の流出人口超過状態になっている。全体的にみた場合，この共和国の特徴は，ウラル，西シベリア地区，カザフ，ウズベク共和国からは流入人口超過，北西，中央地区に対しては一貫して流出人口超過という，いわば東部や南部から北西部への中継地域的性格をもった地域であるといえるだろう。

カザフ共和国について。都市間人口移動についていうと，ウラル，西シベリア地区，ウズベク，キルギス，トルクメン共和国等の都市から相当な人口流入超過の状態であり，また，北西，中央，極東の各地区，ウクライナ共和国に対しては流出人口超過という状況にある。全体的には若干の流入人口超過である。都市間人口移動に関しては，カザフ共和国に中継地域的性格が見られるといっていいだろう。農村から都市への人口移動に関しては，西シベリア地区や中央アジア諸共和国の農村から大規模な人口流入超過状態が見られる。都市から農村への人口移動については，カザフ共和国に対してあらゆる移動形態で人口流出超過状態であるウズベク共和国をのぞき，その他のほとんどの地域の農村に対して人口流出超過となっている。したがって，この点でも，西シベリア地区や中央アジア諸共和国の農村人口が，カザフ共和国の都市を中継しなが

ら，主にロシア共和国の各地区の農村へと移動していく流れが推測されるのである。農村間人口移動については，ウズベク共和国からの流入人口超過をのぞき，北カフカース地区，ウクライナ共和国等への人口流出を中心として，ほぼすべての他地域に対して流出人口超過となっている。全体的にみた場合，カザフ共和国の特徴は西シベリア地区，ウズベク共和国等から多くの流入超過人口があり，北西，中央，極東の各地区やウクライナ共和国に対しては大規模な流出人口超過という，中継点的地域である，ということにあり，また，農村間人口移動においてはロシア共和国のほとんど全域やキルギス，白ロシア共和国に対して流出人口超過状態にある，という点にあるといえる。

キルギス共和国について。全体的に流出入人口超過数が小さいが，特徴的な点は，西シベリア地区からはすべての人口移動形態で流入超過の状態にあり，他方，中央，極東の各地区やウクライナ共和国へは同じくすべての人口移動形態で流出超過という状況にある点であろう。西シベリアからの人口移動の中継的地域といえよう。

以上，いくつかの重要と思われる地域の対外的移動諸関係をみてきたのであるが，これらの諸特徴からいくつかの移動の流れ，問題点を指摘しうる。まず第1に，ロシア共和国の北西と中央地区，極東地区が人口移動のすべての形態における流入人口超過地域となっている点である。これらの地域が，人口移動の集結的地域になっていることは明白となった。さらにレニングラード，モスクワに関する，いわゆる大都市圏形成の諸問題の基礎的要因がこれによって示されているであろう。第2に，西シベリア，ウラル地区が他の地域への大きな人口流出超過を特徴とする地域となっている点である。都市人口，農村人口をとわず，この点は該当する。とくに，西シベリア地区における農業労働力の深刻な状況―若年労働力の流出，カードルの流動性の高さ等々―はこの点と深く関連するだろう。第3に，西シベリア等を流出し，中央アジア諸共和国，ウクライナ共和国等を「中継」しながら，北西，中央へと流れていく人口移動の流れである。中央アジア諸共和国における移動率は相対的に低い（表26のキルギス共和国を参照）こと，拙稿（⑫―55）で示したように，この地域の人口は都

市，農村人口ともに増大しており，ヨーロッパ地域における変化（都市人口増大，農村人口減少）と比較するとちがった様相をみせていること，を考えると，（とくに都市における）移動人口の民族的性格，さらにいうと，中央アジア諸共和国における（とくに都市・工業における）経済建設の主体的条件に関する問題があるように思われる。解明は今後の課題であるが，これらの地域における工業化を中心とする社会主義建設と民族的主体性との関連に関する問題である。当該センサスにおいて民族別人口移動調査は公表されず，全移動者の民族別構成表しかないので，これ以上の分析は不可能であるが，次の第27表のみを示しておこう。各共和国の都市におけるロシア人の比率は相当高いものといわねばならない。

最後に，第28表において都市人口規模別に地域の対内・外移動を総計した人移動の特徴をみてみよう。

表27．中央アジア諸共和国における主要民族構成比
（⑪－Том IV，стр．205，208，286，288，295，297，308，309）

共和国人口	民族	第　1	第　2	第　3
ウズベク	都　市	ウズベク	ロシア	タタール
	%	41.4	30.4	9.7
	農　村	ウズベク	カザフ	タジク
	%	80.0	4.6	4.5
キルギス	都　市	ロシア	キルギス	ウズベク
	%	51.4	17.0	10.9
	農　村	キルギス	ロシア	ウズベク
	%	60.0	16.0	11.6
タジク	都　市	タジク	ロシア	ウズベク
	%	38.6	30.0	13.6
	農　村	タジク	ウズベク	キルギス
	%	66.6	28.5	1.7
トルクメン	都　市	トルクメン	ロシア	ウズベク
	%	43.4	29.0	9.5
	農　村	トルクメン	ウズベク	カザフ
	%	86.1	7.2	2.6

表28. 都市の規模別にみたソ連邦人口移動比（⑪－Том 7, стр. 163）

	総計		都市，都市型居住地に流入	内訳					農村地域へ流入
	(%)			～2万人	2～5万	5万～10万	10～50万	50万～	
ソ連邦	100	100	50.8	15.3	8.2	5.4	13.7	8.1	49.2
都市・都市的居住地から流出	69.5	100	54.8	16.3	8.9	5.9	14.7	9.0	45.2
規模 ～2万人	(18.1)	100	52.9	17.9	7.9	5.2	13.9	8.0	47.1
2～5万人	(11.3)	100	53.4	15.6	9.2	5.4	14.1	9.0	46.6
5～10万人	(7.3)	100	56.4	15.9	8.7	6.9	14.9	9.9	43.6
10～50万人	(20.8)	100	54.7	15.5	9.1	5.9	14.8	9.4	45.3
50万人以上	(12.5)	100	58.0	16.4	9.9	6.8	15.9	9.1	42.0
農村地域から流出	30.5	100	41.6	13.0	6.7	4.4	11.5	6.0	58.4
中央地区	100	100	54.2	16.9	8.8	6.1	14.0	8.4	45.9
都市・都市的居住地から流出	75.4	100	56.0	17.1	9.0	6.4	14.5	9.0	44.0
規模 ～2万人	(16.6)	100	47.0	15.9	8.0	4.9	12.2	6.0	53.0
2～5万人	(13.7)	100	51.8	15.9	8.1	5.5	13.2	9.1	48.2
5～10万人	(9.3)	100	58.4	17.9	8.8	8.3	13.2	10.2	41.6
10～50万人	(20.0)	100	56.3	19.0	9.7	6.3	12.9	8.4	43.7
50万人以上	(15.8)	100	67.4	16.6	10.1	7.7	20.7	12.2	32.6
農村地域から流出	24.6	100	48.5	16.3	8.0	5.2	12.6	6.4	51.5
ウラル地区	100	100	51.8	14.7	10.1	6.2	12.0	8.9	48.2
都市・都市的居住地から流出	73.4	100	54.8	15.7	10.9	6.4	12.3	9.5	45.2
規模 ～2万人	(16.2)	100	53.7	18.3	10.6	4.9	10.6	9.2	46.3
2～5万人	(13.0)	100	52.8	15.0	11.0	5.4	11.5	10.0	47.2
5～10万人	(8.9)	100	49.9	13.0	9.4	6.1	12.2	9.2	50.1
10～50万人	(18.5)	100	52.9	14.3	9.8	6.6	11.6	10.6	47.1
50万人以上	(16.7)	100	62.1	16.9	12.9	8.4	15.4	8.5	37.9
農村地域から流出	26.6	100	43.5	11.7	8.0	5.6	11.0	7.2	56.5

	総計 (%)		都市,都市型居住地に流入	内訳 ～2万人	2～5」	5～10.	10～50万	50万～	農村地域へ流入
西シベリア地区	100	100	48.1	11.8	9.2	3.8	16.0	7.4	51.9
都市・都市的居住地から流出	63.8	100	52.6	12.6	99.	4.5	17.6	8.0	47.4
規模　～2万人	(14.6)	100	53.3	15.1	9.7	4.3	16.4	7.9	46.7
2～5万人	(11.6)	100	48.6	10.6	8.7	4.2	16.6	8.5	51.4
5～10万人	(2.7)	100	61.2	15.0	12.3	4.8	19.7	9.4	38.8
10～50万人	(22.5)	100	54.1	12.0	9.6	4.9	19.8	7.8	45.9
50万人以上	(12.5)	100	50.9	12.3	11.2	4.1	15.7	7.7	49.1
農村地域から流出	36.2	100	40.1	10.3	7.9	2.7	13.1	6.2	59.9
ウクライナ共和国	100	100	49.9	16.5	7.2	5.6	12.2	8.3	50.2
都市・都市的居住地から流出	73.0	100	54.1	17.3	7.9	6.2	13.4	9.3	45.9
規模　～2万人	(19.8)	100	50.3	18.4	6.6	5.4	11.7	8.2	49.7
2～5万人	(8.7)	100	54.7	17.2	8.9	6.0	12.6	10.0	45.3
5～10万人	(8.1)	100	57.0	16.8	8.9	6.9	14.8	9.7	43.0
10～50万人	(19.4)	100	54.8	16.2	7.8	6.7	14.2	9.9	45.2
50万人以上	(17.1)	100	56.1	17.7	8.6	6.1	14.3	9.3	43.9
農村地域から流出	27.0	100	38.3	14.1	5.2	4.2	9.0	5.8	61.7
キルギス共和国	100	100	48.5	11.2	11.8	3.2	17.4	4.9	51.5
都市・都市的居住地から流出	64.7	100	51.8	13.0	11.7	3.7	17.5	6.0	48.2
規模　～2万人	(14.2)	100	60.5	18.6	13.9	3.4	20.1	4.5	39.5
2～5万人	(17.1)	100	46.3	12.8	7.6	4.2	16.7	5.0	53.7
5～10万人	—		—	—	—	—	—	—	—
10～50万人	(33.4)	100	51.0	10.6	12.9	3.5	16.8	7.1	49.0
50万人以上	—		—	—	—	—	—	—	—
農村地域から流出	35.3	100	42.5	8.1	11.8	2.3	17.3	2.9	57.5

ソ連邦全体についてみると，(1)全移動者のうち51％が都市・都市的居住地へ，49％が農村へ流入していることがわかる。急速な工業化の中における人口移動の流れは，資本主義社会（たとえば日本）において広範にみられる農村から都市への圧倒的な流れとはちがった様相をみせているといえるだろう。つまり，全移動者の70％は都市，都市的居住地からの流出であるが，そのうち55％は都市・都市的居住地へ流入，45％は農村へ流入する。都市から農村への移動の比率の大きさに驚かされるのである。都市の規模別にこの点をさらにみていくと，人口2万人以下の都市から農村への人口流入率が47％で1番高いが，しかし，人口50万人以上の規模の都市からの農村への人口流入率も42％であり，大きな差はないのである。(2)流入都市規模別に流入人口の比率をみると，流出都市の規模のいかんにかかわらず，まず第1位が2万人以下都市，第2位が10～50万人都市という順位になる。この点については2万人以下の都市の経済・社会的諸性格，政府・共産党の基本的都市政策の内容を検討することが必要だが，それにしても，（巨）大都市への人口集中が顕著な資本主義社会諸国とは対照的なのである。(3)全移動者の30％をしめる農村地域からの流出のうち，41％は都市・都市的居住地へ，58％は農村へ流入するのである。農村間人口移動の比率の大きさが注目されるのである。都市への流入者の都市規模別比率は，都市流出者のそれと等しいといえる。

(4)次に，人口移動に関して諸特徴をもついくつかの地域について同様の諸点をみていくと，ごく一部の例外をのぞくと全体的には，ソ連邦全体の傾向は，各地域においても貫徹されているといってよい[4]。

おわりに

以上の諸結果を再度まとめよう。(1)人口移動の流出，あるいは，人口配置の変動は，一面では，東方（とくに極東地区）や中央アジア諸共和国にむかっている。ソ連邦全体の中での産業配置，人口配置という面からごく概略的にみた

とき，この変動や流れは，全国的な均等化の方向という性格をもっているといえるだろう。工業化が比較的進展した，いわば先進的なヨーロッパ部分と，東方，南方の諸地域との諸格差を縮小する動きと性格づけることもできよう。

(2)しかし，人口移動率は，とくに中央アジア諸共和国においては，まだ低く，ロシア，ウクライナ，カザフの3共和国に関する比率が圧倒的であることをみるとき，この点でも，前稿（「ソ連における人口分布」）で私がのべた，「全国的な工業化，『都市化』により，人々の生産・生活が大きく変化してきているのも，最近のことである」（⑫—55）という点は実証されたように思う。東方，南方の諸地域の工業化等の本格的な変革はこれからである。

(3)上述，人口低移動率とも関連することであるが，現段階のソ連における人口移動の様相は，資本主義諸国にみられる，「都市化」にともなう農村から都市への人口移動の圧倒的流れをみせる様相とは質的にちがっている。本稿ではふれることのできなかった，都市の増大のあり方，農村居住地の変化のし方[5]とともに，この点は注目すべきであろう。都市と農村との関係における人口移動の互換性，あるいは全面性を特徴とするといえるだろう。

(4)以上の諸点を基底としながらも，現在の人口移動のあり方はいくつかの問題点をかかえているといえる。まず，東方，南方への一定の人口配置の変化にもかかわらず，依然として，ロシア共和国のヨーロッパ部分への人口の集中は強い勢いをもっているということである。既述したような，西シベリアや中央アジア諸共和国の都市や農村を媒介した人口移動の流れの「集結点」としてであれ，あるいは，より直接的な，当該地域の農村から都市への人口移動であれ，とくにこれらの地域の都市に対しては人口流入状態が続いており，諸問題をひきおこしている点があげられる。

次に，いまの点とも関連するが，中央アジア諸共和国における人口移動のあり方について。共和国の内部的にはきわめて低い人口移動率が維持された中で，都市を媒介した，ロシア人の比率を高くもった人口移動は流動性が高く，ヨーロッパ・ロシア部へ「還流」していくという意味で問題となるだろう。

第3番目に，ウラル，西シベリア地区からの大規模な人口流出状況をあげる

ことができる。この両地区がソ連邦において例外的ともいえるほど，人口流出状況が激しいことは既述したし，これらの地域，とくに農村における，深刻な労働力不足，人口構成の悪化は，すでに，中山弘正氏やザスラフスカヤの指摘するところである。この問題は，政策的方向性とも大きくくいちがっているといわねばならない。

注

(1)　さきほどから使用している人口移動の概念を簡単に定義しておきたい。Б.С. ホーレフによると人口移動概念について統一的定義はいまだない，その概念には広義と狭義のそれがあり，狭義の意味において多くの論者（たとえば，В.И. ペレベデンチェフ，В.В. オニキエンコ，В.В. ポクシシェフスキー）の支持する定義は次のようなものである。「ある地点から他の地点への人々の位置変更を人口移動とよぶ。固有の意味における移動は，ふつう，定住地の変更，つまり，以前の居住地から新居住地への移動と関連している。臨時的，恒常的位置変更の区別は，以前の居住地における不在期間，あるいは，新居住地での滞在期間を基礎にしておこなわれる。人口流動性（подвижность населения）の研究は，固有の意味の移動だけでなく，臨時的位置変更（通動的《маятниковая》，季節的移動）も含む。」（④－24～25）。本稿でもこの定義に依っている。

ソ連邦において人口移動に関する本格的な研究が開始されてからまだ20年もたっていない。1950年代末からシベリアでは研究が着手されてくるが，本格的には1960年代末，ソ連邦共産党20回大会後（1956年2月），社会学の存在意義が認められてくる過程とともにこの問題に対する研究が再開されてくるのである。革命以前にはロシア中央部からシベリア等への農民的移動の問題について研究がおこなわれていたことについてはレーニンの諸著作などからもうかがえる。1926年のセンサスにおいてはこの問題に対する設問はあるし，関心が強いわけであるが，いわゆる「スターリン時代」になると，人口の組織的移動と区別された意味での人口移動の存在は完全に否定され，研究も空白となる。つまり，この時期には人口移動は計画経済下における組織的移動として生じているとの解釈が支配的であった。（⑤－48）たしかに，1930年代には「組織的募集（оргнабор）」が組織され，（ロシア共和国についていうと）30年代には約2,800万人を主に農村から都市工業へ移動させている。第二次大戦中は中断されたが，1947年5月に再開始され，主にシベリア，極東，北部等の重要な企業の労働者補充の為に機能している。しかし，1951—70年にかけてその移動総数は約560万人と計算され，低下傾向は明瞭である。代って，非組織的な人口移動（主に農村から都

市へむけて）が急激に増大してくるのである（⑥－65，③－142～143）。

次に，ソ連における人口移動数計算方法について概略的に見ておこう。方法としては大別して①基本的にはパスポート制度にもとづく直接的な毎年の記録（текущий учёт）と，②センサスに代表される「間接的方法」とでもよびうる方法がある。①については（社会主義的民主々義の基本的条件という点との関連でこの制度の必要性の有無，その利用のされ方についての問題はおくとして）その精度に関して大きな問題があるようである。歴史的にみると，1930年代初期から都市，労働者居住地，地区中心地，新形成の村，ソフホーズ，MTC などにおいてパスポート制度が組織されたが，農村には導入されなかった。1953年に統一的なパスポート制度が形成され，都市においては住宅開発所，家屋管理部等で調査，農村においては農村ソビエトが調査ということになったが，農村地域では不完備であった。この調査で「流入」として計算される人口移動は，（a）その居住地で恒常的居住をする者，（b）当該地に到着するまでの期間や作業の形態（恒常的，あるいは季節的等）を問わず，労働する者，（c）パスポート制度が確立されている都市等においては45日以上，パスポート制度の不備な農村居住地等においては30日以上の期間にわたって学習する者，（d）同じく，都市等に45日以上，農村居住地等に30日以上の期間にわたって派遣された者，である。計算の際に家族の動向も考慮される。この計算方法の大きな問題点は，記入カード内容の不正確さ（とくに高年令層の場合），管理の為の全連邦的機関の欠如（この点も存在すべきか否かに関する評価は措くとして），農村地域におけるパスポート制度の不備であると指摘されている。もっとも，農村地域へのパスポート制度の導入は1976年に決定され，1981年に完了する計画である。②について。人口移動の基礎となる当該居住地居住経続期間の調査は1926年，1970年のセンサスで実施されている。ただし，1970年センサスの場合，2年以内の移動人口の結果のみが公表されている。1926年，70年の両調査とも，とくに農村における精度上の諸問題点のために，完全に正確というわけでは決してなく，①の調査と補完的に検討されねばならないし，また，現状では，基本的傾向をあらわすものと考えられる必要がある（④—67～85）。

(2) この方法については活発な論議が続けられたようで，ペレベデンチェフ等は1926年の調査方法を踏襲するよう主張している。この人口移動調査は25%選択で実施され，全人口に適用された。

(3) 中山弘正氏の主張する「位階制的職種階層構造」の論証の中心は西シベリア地区におかれており，この点は検討されるべき問題点である。

(4) 西欧における当該問題の研究成果の一端を示す，緻密な研究書 "Demographic Developments in Eastern Europe"（ed. by Leszek A. Kosinski）1977，において Theodore Shabad は丹念な研究成果を示す論文，Soviet migration patterns based on 1970 census data，を分担している。この論文は3節に分れており，(1) 1959—70年のセンサス間の人口移動傾向と，(2)1968—69年の短期的人口移動の流れ，

(3)結論から構成されている。

(1)において，T. Shabad は，都市と農村という区分，自然的増減，地域編成替え（農村から都市へ等々），人口移動という人口変動要因分類にしたがって，断片的資料を整合し大きく4つの人口変動パターンを列挙している。a．当該地域農村人口減少をともなう人口流入地域，b．農村人口増大をともなう人口流入地域，c．農村人口増大をともなう人口流出地域，d．農村人口減少をともなう人口流出地域である。a地域はバルチック3共和国，ウクライナ，ロシア共和国の北西，中央，ボルガ地区である。農村における不適切な年令，性別構成等による低率な人口自然増大率が特徴となっている。b地域はカザフスタン，中央アジア諸共和国，モルダビア，ウクライナ南部，アルメニアの各共和国，北カフカース地区，極東地区に代表される。南部の諸共和国におけるこの傾向の要因は，人口の自然増加率が高いが，都市―農村間の人口移動率は低く，「工業的発展はこれらの共和国への人口流入に大きく依存している」（179）こと，とくに北カフカース地区やウクライナ南部では気候条件や生活条件の好適さが誘因となっていることである。アルメニア共和国の場合，他地域のアルメニア人の帰還が中心であり，また，極東の場合は政府の政策による人口移動という要因がつよい。これらの地域において，「明確な移動パターンが発展してきており，そこでは，シベリアはヨーロッパ・ロシアから中央アジアへの移動者のスプリング・ボードになっており，そして，この循環は中央アジアからヨーロッパ・ロシアへの還流で終結するのである」（180）。

c地域は，グルジア，アゼルバイジャン共和国に代表される。高い人口自然増加率によって農村から都市への人口移動と人口流出とは埋めあわされている地域である。

d地域はロシア共和国の中央黒土，ボルガ・ビャック，ウラル，東西シベリアの各地区と白ロシア共和国，ウクライナ共和国南西部に代表される。ウラル地区の石炭産業の衰退等が大きな要因としてある。農村から都市への高い人口移動率，農村における人口の年令・性別構造の悪化による人口自然増加率の低下他地域への大きい人口流出，が特徴となっている。

(2)において，Shabad は，まず，1970年センサスにおける人口移動調査自体の問題点を一応指摘した上で，1968―69年の各地域の移動の性格と59―70年のそれとのくいちがいを見せている地域についてその原因を考えていく。東シベリア：60年代末に人口移動バランスが好転した地区。カザフ共和国：50年末から60年代にかけて，いわゆる「処女地開拓」のために大規模な人口流入があったが，それ以降に逆転した地域。中央アジア諸共和国における60年代末の流出傾向の意味は不明確であるが，カザフ共和国の労働力不足に対応する（とくにウズベク共和国における）人口流出，少くともその一部は，カザフ共和国からロシア共和国のヨーロッパ部分への人口移動と関連をもった中央アジア諸共和国からの人口流入によって説明される，としている。

次に，1万人以上の移動規模をもつ諸地域の特徴をのべる。まず，ロシア共和国の

北西，中央地区の強い吸引的状況は明白である。レニングラードと北部の工業化，モスクワへの人口流入の影響は大きい。

ヨーロッパ・ロシアの主要な人口流出地域はボルガ・ビャック，中央黒土地区であり，農村人口が急激に減少している。主にボルガ・ビャックからは北西，中央，ボルガの各地区へ，中央黒土地区からは北方の工業地域とウクライナ共和国南部へ人口が流出している。

ボルガ地区はロシア共和国の5つの経済地区とカザフ共和国と境を接しており，人口移動の中継地点的役割を果しており，人口移動率は高い。全体的な移動バランスはプラスである。

北カフカース地区は都市と農村の人口がともに増大した唯一の地区で，この農村にはウラル地区やカザフ，ウクライナ共和国から人口が流入してきている。また，西シベリア地区やグルジアからも大規模な人口流入がある。他方，この地区からは主に，中央，ボルガ，極東の各地区に大きな人口流出がみられる。

ウラル地区は都市，農村のいずれに関しても流出人口超過である。都市人口流出は，石炭業の衰退のためと説明されている。また，ウラル地区における人口移動の流れはボルガ・ビャック—ウラル—西シベリア—東シベリア—極東へとむかう東方への人口移動の一環となっている。西シベリア地区はウラル地区につぐ大規模な人口流出地区であり，チュメニのみが顕著な人口増大を示している。

東シベリア地区における60年代末の人口移動傾向は一時的なものであるかどうかは明確でないが，基本的な人口移動の流れは東方への移動の一環としての性格をもつ。

極東地区は，中央や北カフカース地区に対してさえ人口流入地域であり，政府の開発のもとでこの傾向は強化されている。

ウクライナ共和国は地区により大きなちがいを見せている。

カザフ共和国は西シベリア地区や中央アジア諸共和国からの人口流出を受け入れ，ヨーロッパ・ロシアやウクライナ，白ロシア共和国へ流出させている。

(3)において Shabad はいままでの結果をまとめて以下の4点を結論づけている。

第1に「相対的により高い生活水準や経済—文化諸機会をもつ，モスクワやレニングラードのような大都市圏をもつ，中央ロシアや北西地区のようなソ連邦ヨーロッパ部分の主要な都市地域への顕著な人口流入は主要な人口誘因として機能している。ウクライナ共和国における工業的なドネツ・ドニエプル地域もこの傾向の焦点である」。

第2に，「北方，極東，ならびに中央アジアの砂漠地方のような新しい開発地域への大きな人口流入は，部分的には，労働力を引きつけるための特殊的諸便益によって強められている」。

第3に，「ソ連邦ヨーロッパ地域の南部，黒海沿岸や北カフカースへの人口流入も，また，見られるが，そこでは，気候がかなりの要因となっている」。この人口流入は，ウラルや西シベリアのような労働力不足地域からの流入である。

第4に，「人口流出の主要源地域は，ヨーロッパ・ロシアの高度に農村的なウクライナ南西，中央黒土，ボルガ・ビャック地区のみでなく，ウラルや西シベリア地区もそうであり，ここでは，劣悪な住宅諸条件や消費財不足のために，定住が妨げられている」と。

Shabad の研究は統計自体を独自に作成し，分析を深めていったこと，共和国内部の各地区に関する分析を，ロシア共和国に関してだけでなく，その他の共和国についても実施していること，などの点で高く評価できる内容をもつ。ただ，次の諸点は問題点としてのこる。第1に，1959—70年の人口移動の研究においては，基本的に，移動の流れ（方向）については，研究の性格からいって言及できないはずであるのに，十分な論拠を示さずに，中央アジア諸共和国等に関して，この点を主張していること。第2に，1970年センサスにおいては，4つの移動形態ごとの，各地域間の移動の流れが明確にできるはずであるのに，それをしていないこと。第3に，Shabad の基本的分析視点は農村の都市化という考えであり，移動の全体的性格の分析という点で不十さを示していること。ここから，西シベリア地区に関する不正確な評価（図9・3）が出てくると思われる。

第4に，人口移動に関する諸要因については，（ここでは結論だけがのべられているが）より具体的で全体的な分析が必要であろう。

以上の諸問題点を指摘しうるが，全体的には私の結論と多くの点で共通しているといえよう。

(5) この点については，たとえば，二瓶剛男，戦後ソヴェト社会主義における都市と農村，（島崎稔編「現代日本の都市と農村」1978）を参照のこと。

引 用 文 献

① 小野一郎，「現代社会主義経済論」，1979。

② 田中雄三，社会主義経済研究の視点，「経済」1974年5月。

③ Т. И. Заславская, Методологические проблемы изучения миграции сельского населения, ≪Статистика миграции населения≫ 1973.

④ Б. С. Хорев, В. Н. Чапек ≪Проблемы изучения миграции населения≫ 1978。

⑤ В. И. Переведенчев, ≪Методы изучения миграции населения≫, 1975。

⑥ Ю. А. Матвеев. Организированный набор как одна из основных Форм планового перераспределения рабочей силы, ≪Миграция Населения РСФСР≫ 1973。

⑦ Всесоюзная перепись населения, 1926 года。

⑧ Г. Максимов, Население СССР, ≪Вестник Статистика≫ 1963, 3。
⑨ С. А. Ковалев, Изменения в размещении населения СССР за годы социалистического строительства, ≪Вестник московского университета≫ 1968, 3。
⑩ 小川和男,「シベリア開発と日本」1974。
⑪ Итоги всесоюзной переписи населения 1970 года, Том Ⅶ, 1974。
⑫ 保坂哲郎, ソ連における人口分布, 高知大学学術報告, 1978。